第3章　　伊賀市の概況

3-1　本章の着眼点とまとめ

本章では、伊賀市の人口や学校教育、観光等の視点から、伊賀市民や伊賀市に来る方々の動向を整理します。これらの整理より、人々の暮らしや移動に資する地域公共交通を考える足掛かりとします。

■伊賀市の概況のまとめ（1/2）

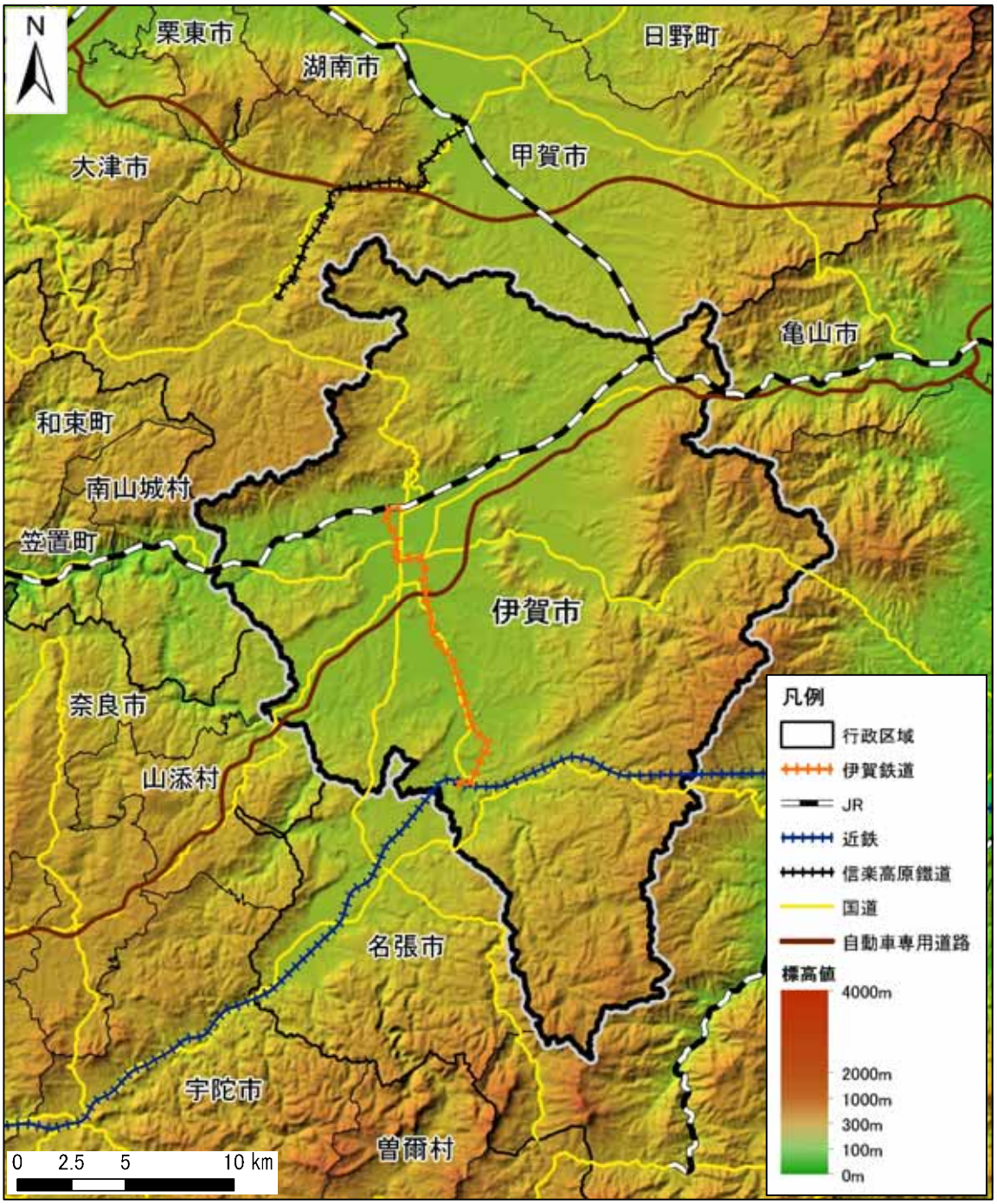
地理的概況 （p55）	○三重県の北西部に位置し、盆地地形となっていますが、名張市とは峠を越えることなく繋がっています。
人口 （p56～68）	○2000（平成 12）年をピークに人口は減少しており、今後は5年間で約 6,500 人減少と本格的に人口減少が進むことが想定されています。また、少子化が進むことが予測されており、年少人口は 5 年間で約 1,000 人減少することが予測されており、老年人口についても、2020（令和 2）年をピークの減少に転じると予測されています。 ○人口密度は市の中心部の上野市駅周辺や、ゆめが丘地域、青山地区の住宅団地が形成されている地域では高くなっています。 ○地区別の人口は、規模の大きい上野地区の約 59,000 人から、規模の小さな島ヶ原地区の約 2,200 人まで様々で、老年人口割合も地区によって様々です。地区別の人口分布は、一部を除き低密度となっており、面的に人口が広がっている地区や、道路から離れた地区に分布している地区もみられます。 ○年齢別人口移動より、大学生となる 20 歳前後や新社会人となる 25 歳前後で特に転出者数が多く、市外へ流出しています。 ○死亡数が出生数を上回る自然減となっており、近年では年間約 600 人の自然減となっています。 ○昼間人口も減少していますが、夜間人口より減少数が小さく、昼夜間人口比率はわずかに増加しています。
学校教育 （p69～71）	○小中学校の児童数・生徒数は 2010（平成 22）年から 2018（平成 30）年の 8 年間で 12～13%の減少となっています。 ○市内の公立高校の生徒数の推移は 2015（平成 27）年時点の 1,908 人から 2019（令和元）年時点の 1,870 人とほぼ横ばいとなっています。
施設分布 （p72～76）	○公共施設や子育て支援施設は、各地区の支所周辺に多く分布しています。 ○公共施設や医療施設、規模の大きなスーパーは比較的、バス路線沿線に位置している施設が多いですが、上野地区の中心部に立地するスーパーの中では、バス停からわずかに距離のある箇所に立地する施設もみられます。

■伊賀市の概況のまとめ（2/2）

産業動向 （p77～78）	○市内総生産額の推移をみると、第１次産業、第２次産業、第３次産業ともに概ね横ばいもしくは微増傾向となっており、第２次産業が全体の約 60%を占めています。 ○事業所数は減少傾向ですが、従業員数は 2006（平成 18）年から 2014（平成 26）年にかけて約 4,000 人増加しています。 ○従業員は上野地区の中心部やゆめが丘地域、名阪国道沿線に多く分布しています。
通勤・通学流動 （p79～80）	○2005（平成 17）年から 2015（平成 27）年の流出数・流入数の推移は、流入数はほぼ横ばいですが、その中で、就業者数は増加、通学者数は減少となっています。また、流出数は減少しており、2005（平成 17）年の 10,775 人から 2015（平成 27）年の 8,938 人と 10 年間で約 1,800 人減少しています。これは伊賀市の生産年齢人口の減少によるものと考えられます。 ○通勤、通学ともに名張市との流動が多く、通勤・通学合わせ、流入人口が 7,801 人、流出人口が 3,275 人となっています。 ○通勤は名張市に次いで、県内では津市との流動が多く、流入・流出ともに 750 人程度となっています。また、県外との流動も多く、奈良県、大阪府には、それぞれ 800 人程度が市内から働きに行っており、奈良県内からは 1,700 人となっています。 ○通学は名張市に次いで、津市との流動が多く、また、県外へは大阪府へ 333 人、奈良県へ 154 人、京都府へ 141 人と関西圏への通学者がみられます。
観光動向 （p81～82）	○観光・レクリエーション入込客数は、概ね減少傾向となっており、2015（平成 27）年度の 2,768 千人をピークに 2019（令和元）年度は 2,424 千人と約 300 千人減少しています。
自動車交通 （p83）	○人口あたりの自動車保有台数は 0.9 と自動車保有は非常に大きくなっています。 ○市内の運転免許返納者はほとんどが高齢者となっていますが、年間で約 300 人程度が返納しており、近年は大きく増加しています。 ○2018（平成 30）年時点の市内の交通事故件数は 150 件程度ありますが、近年は減少傾向となっています。

3-2 地理的概況

伊賀市は、三重県の北西部に位置しており、北東部を山脈、北西部を台地、南東部を山地、南西部を高原に囲まれた盆地となっています。市内は低地・台地は少なく、丘陵地が多くなっていますが、名張市とは峠を越えることなく繋がっています。なお、水系は大阪湾に流れ込む淀川の源流域であり、近畿圏域の水源地となっています。



資料：国土地理院ウェブサイト

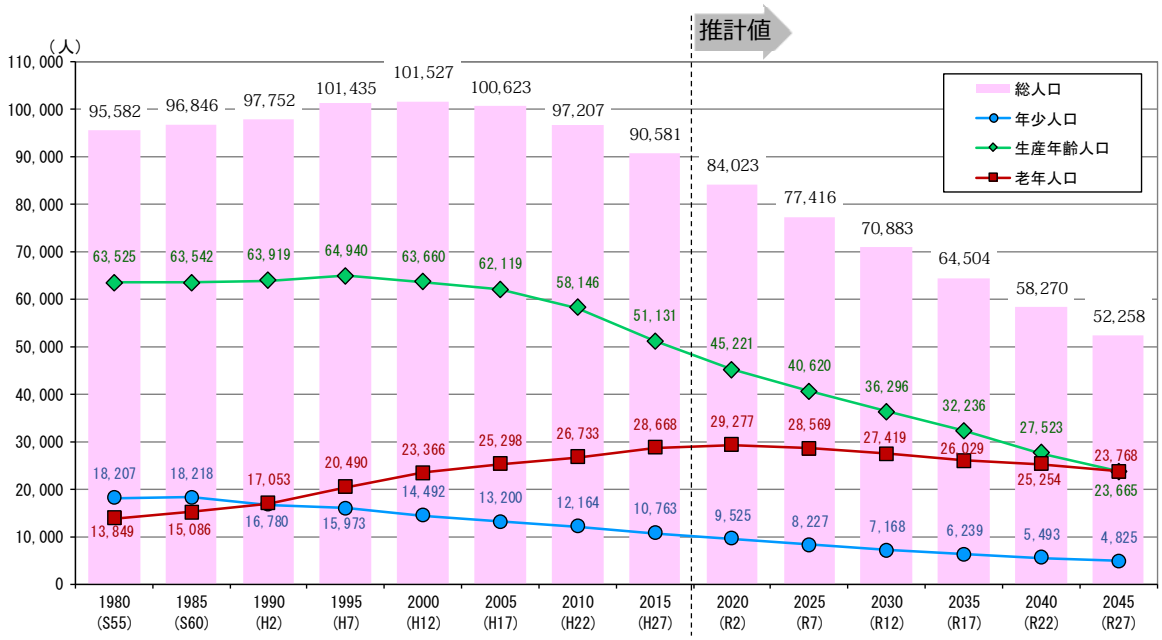
■標高図

3-3 人口

(1) 人口の推移

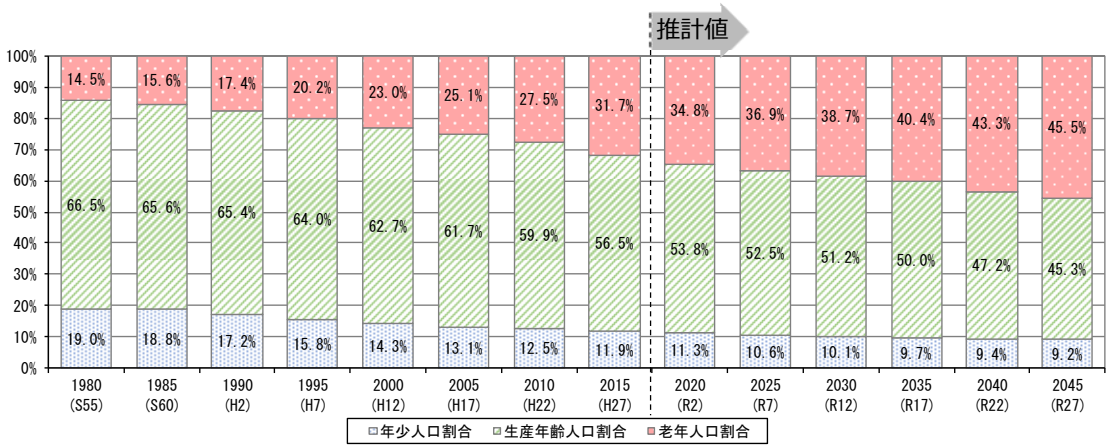
伊賀市の人口は、2000（平成 12）年の 101,527 人をピークに減少し、2015（平成 27）年時点では 90,581 人と、ピーク時と比較し、10.8%減少しています。今後は５年間で約 6,500 人減少と本格的に人口減少が進むことが想定されています。

３区分別の人口をみると、年少人口、生産年齢人口は減少し続けており、老年人口についても、2020（令和２）年をピークに減少することが推計されています。また、割合としては、2015（平成 27）年時点で、高齢化率は 31.7%となっていますが、今後はさらに増加し、2030（令和 12）年時点では 40%近くまで上昇すると推計されています。



資料：国勢調査と、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
（令和２年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ（平成 30 年３月公表）に基づく推計値）

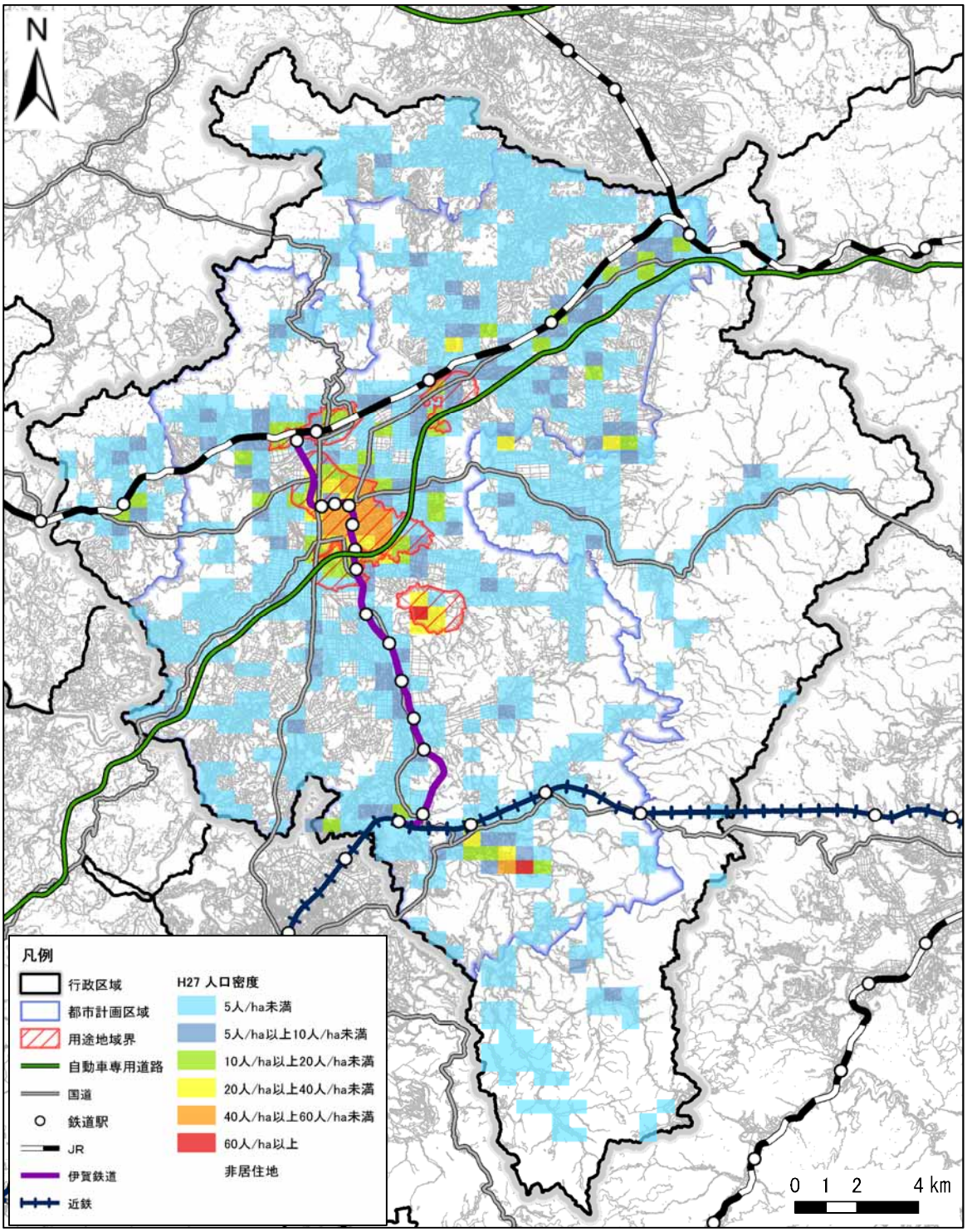
■人口の推移



※年齢不詳を除く

■３区分別人口割合の推移

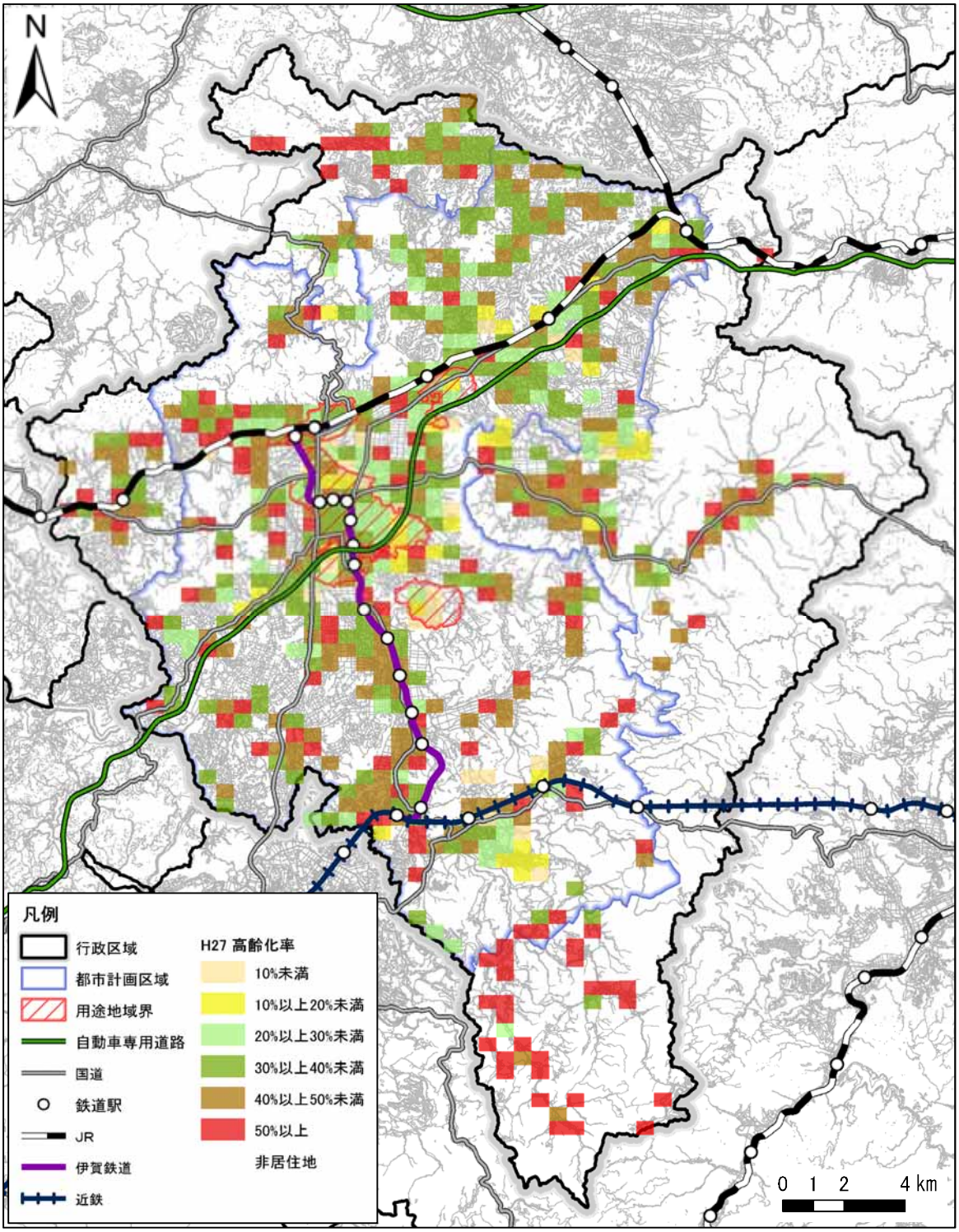
人口密度は、市中心部の上野市駅周辺で高くなっており、ゆめが丘や青山地区の住宅団地が形成されている地域でも高くなっています。その他の地域は、比較的低密度な居住地域が面的に広がっています。



資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 500mメッシュ）

高齢化率の分布状況をみると、市中心部は概ね 20%台、30%台程度であるのに対し、山間部など市外延部になるにつれ、30%台や 40%台となり、山間部などでは 50%以上の地域もみられます。



資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年高齢化率 500mメッシュ）

(2) 地区別人口

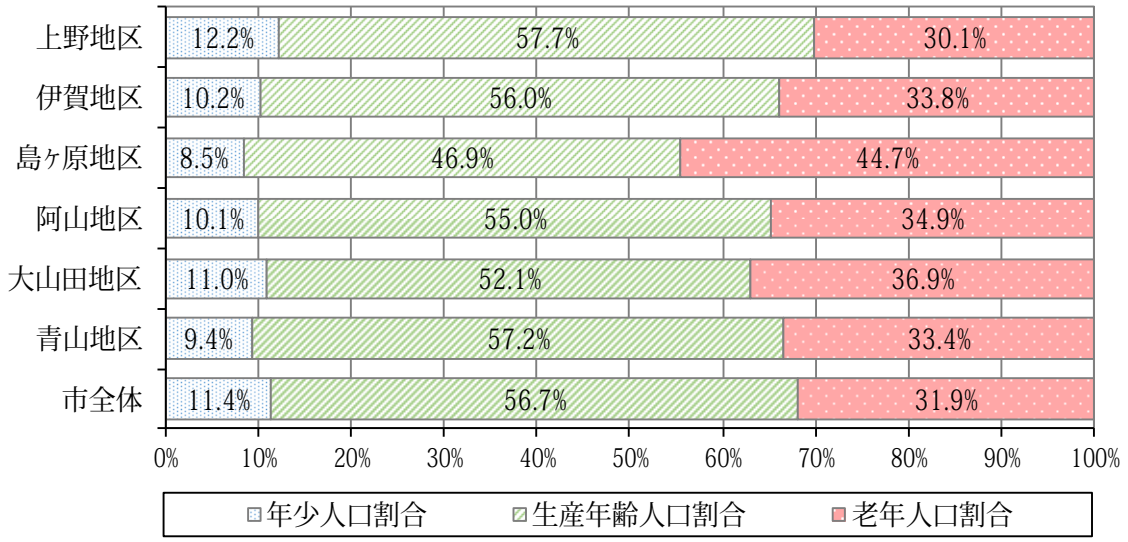
住民基本台帳における地区別人口は、上野地区が約 59,000 人であり、伊賀地区、青山地区が 10,000 人程度、一番小さい島ヶ原地区では約 2,200 人となっています。市全体の人口の 63%が上野地区の居住者となっています。

3 区分別の人口をみると、島ヶ原地区以外の地区は、生産年齢人口割合が 50%台、老年人口割合が 30%台となっており、島ヶ原地区は、生産年齢人口割合が 46.9%、老年人口割合が 44.7%と他の地区と比較し、高齢化が進んでいます。

■3 区分別の地区別人口

	総人口（人）	年少人口（人）	生産年齢人口（人）	老年人口（人）	世帯数（世帯）
上野地区	58,668	7,181	33,853	17,634	26,496
伊賀地区	9,843	1,000	5,513	3,330	4,054
島ヶ原地区	2,206	187	1,034	985	802
阿山地区	7,041	713	3,874	2,454	2,667
大山田地区	5,029	553	2,619	1,857	1,936
青山地区	9,690	912	5,541	3,237	4,108
計	92,477	10,546	52,434	29,497	40,063

資料：伊賀市人権生活環境部戸籍住民課（平成 30 年 4 月 30 日時点）

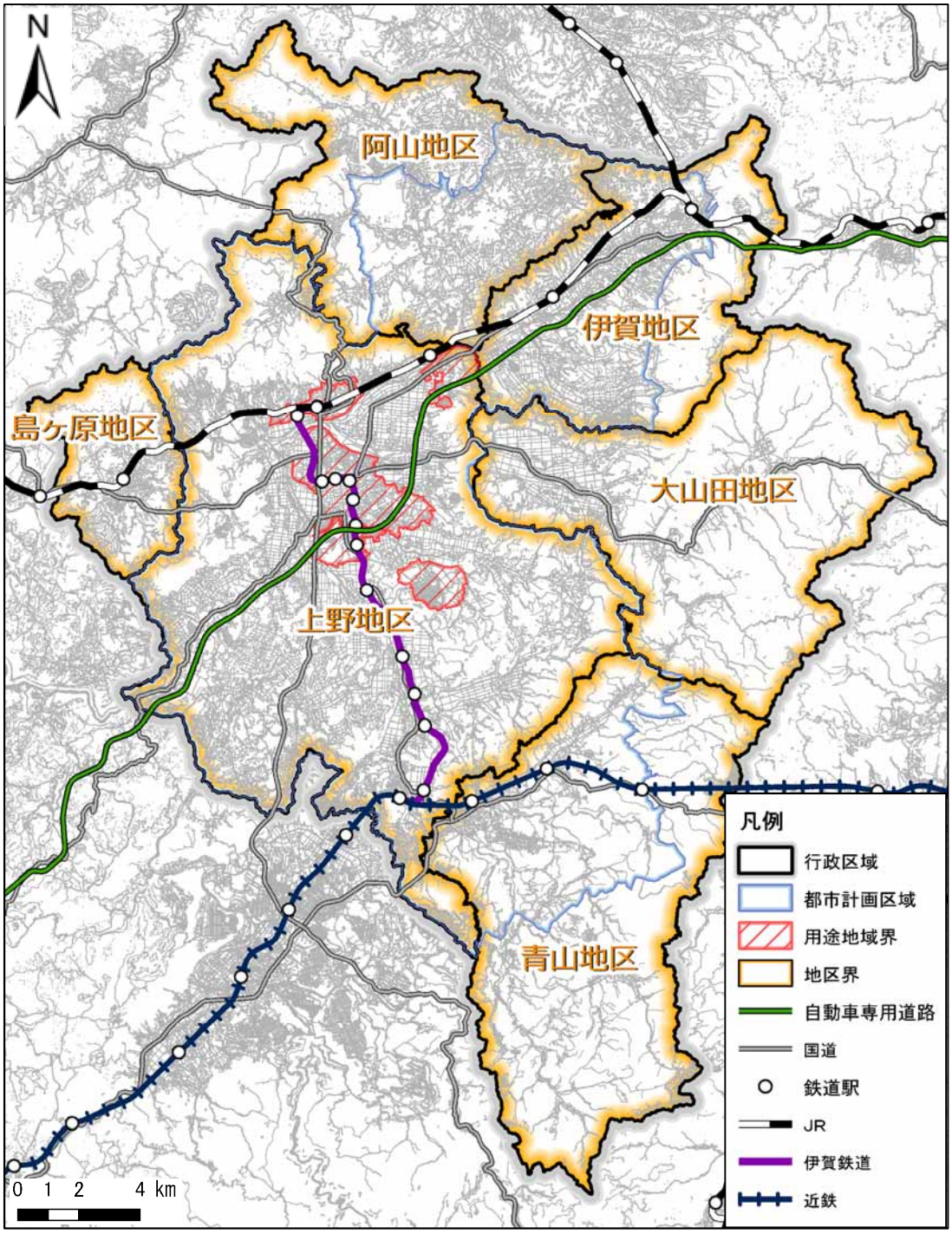


資料：伊賀市人権生活環境部戸籍住民課

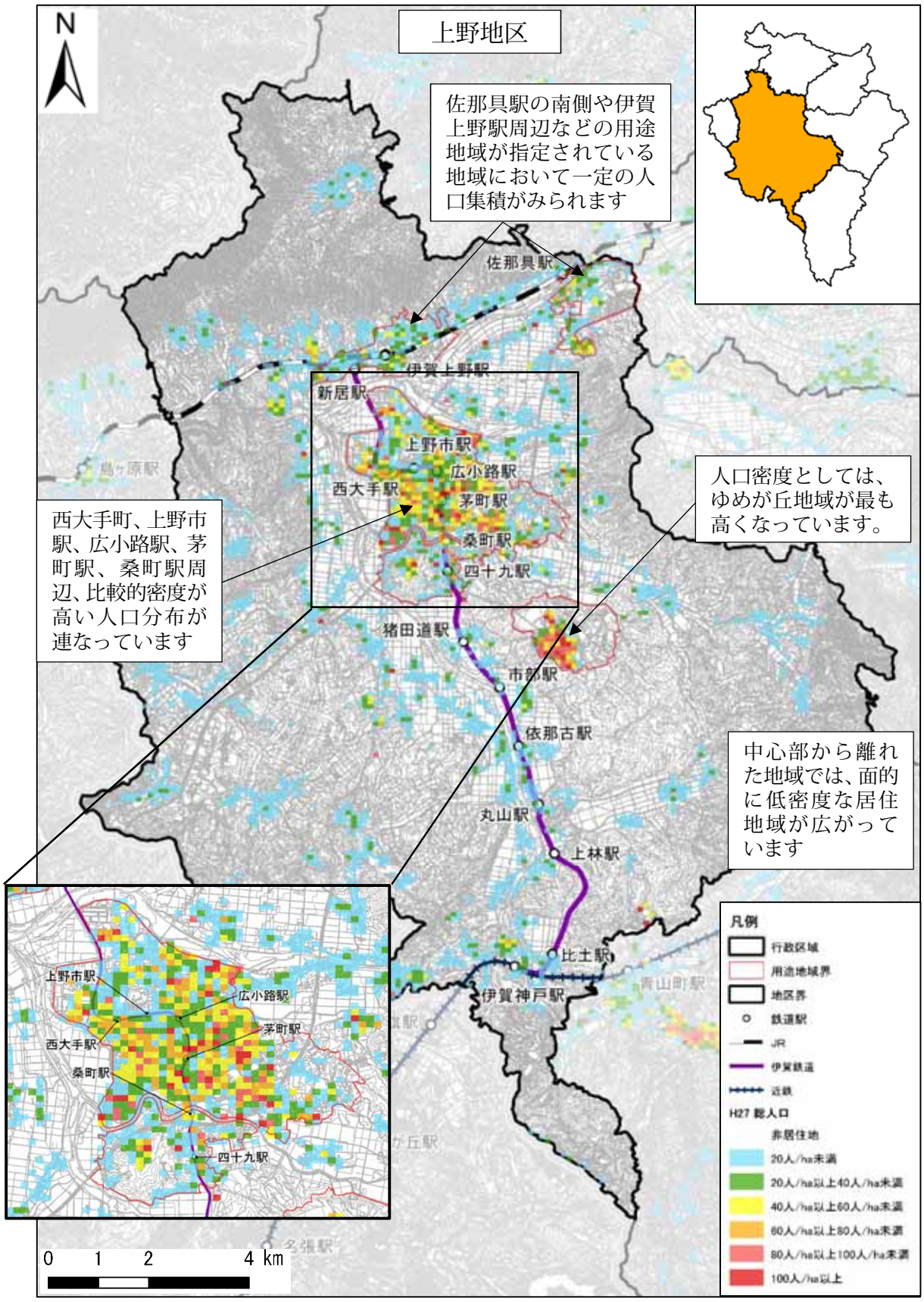
■3 区分別の地区別人口の割合

伊賀市は、2004（平成 16）年 11 月 1 日に 6 市町村が合併し誕生しましたが、合併前の旧市町村となる 6 地区（上野地区・伊賀地区・島ヶ原地区・阿山地区・大山田地区・青山地区）は、以下のとおりとなっています。人口が多い上野地区は、伊賀市の中心部に位置しており、他地区と比較すると、幹線道路や鉄道が多く通っており、伊賀鉄道は、上野地区内で完結しています。

次ページ以降に地区別の人口分布を整理していますが、人口が面的に広がっている地域や、道路からひとつ山間部に入った箇所に集落が広がっている地域などがみられます。

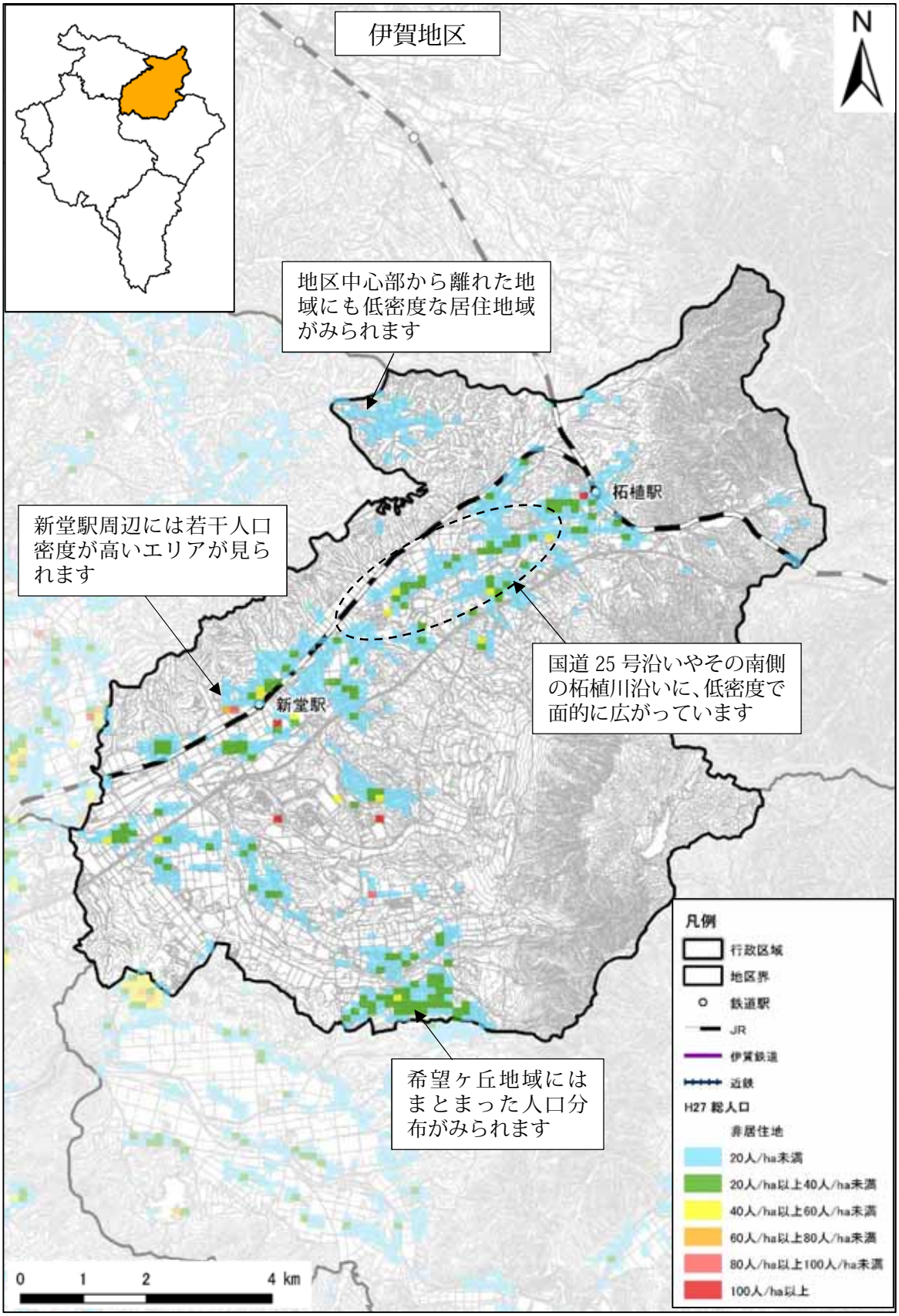


■地区界



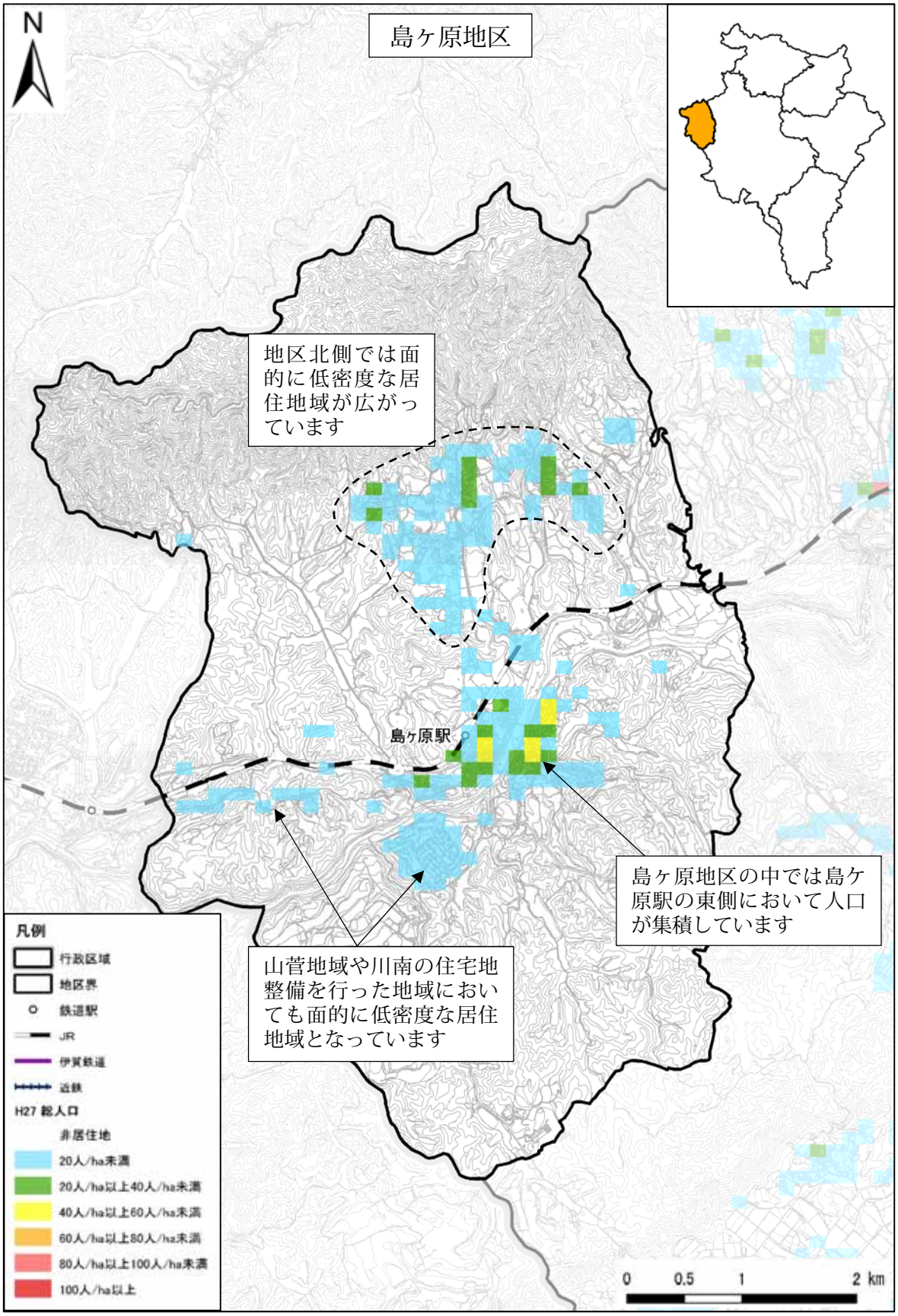
資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・上野地区）



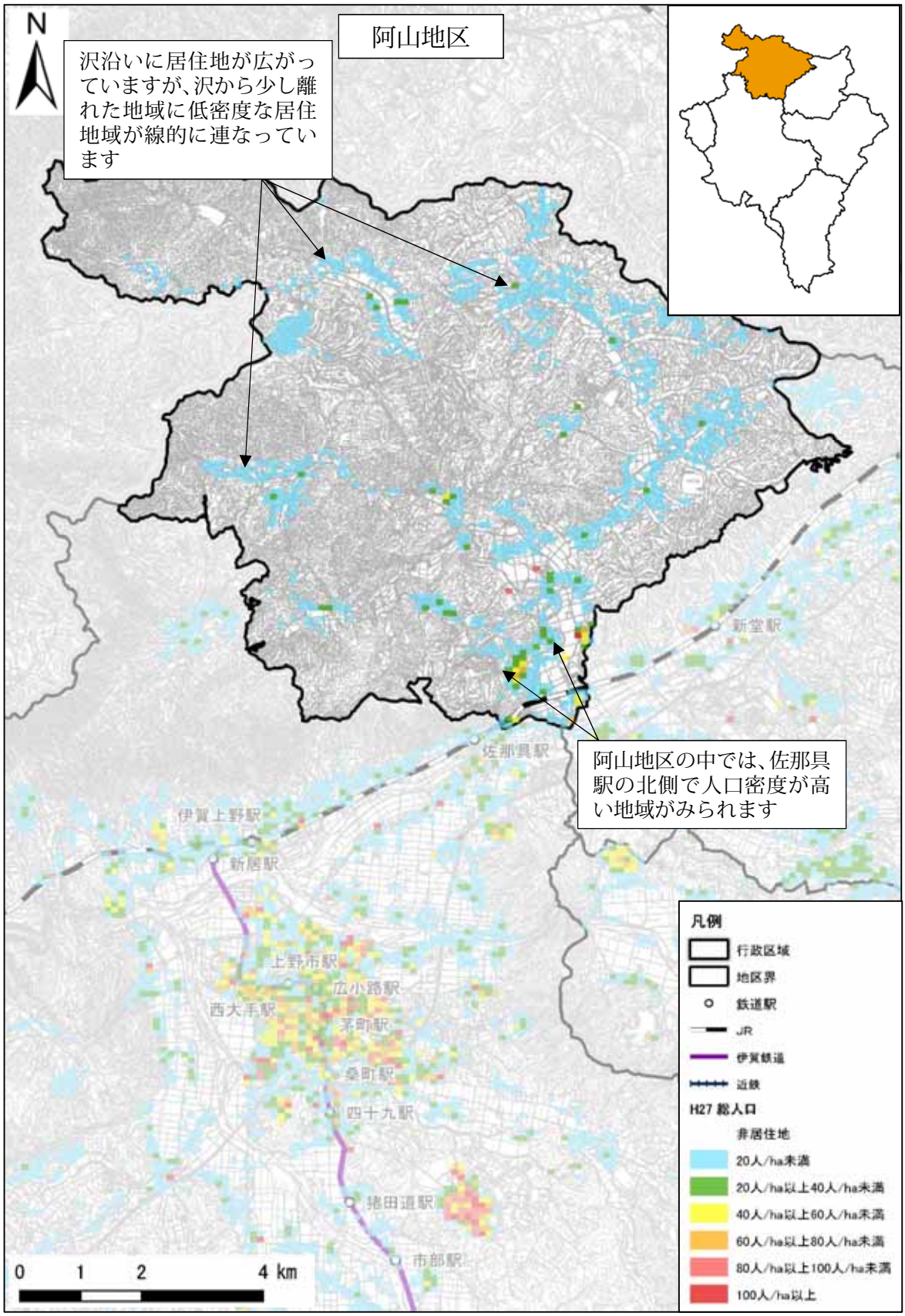
資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・伊賀地区）



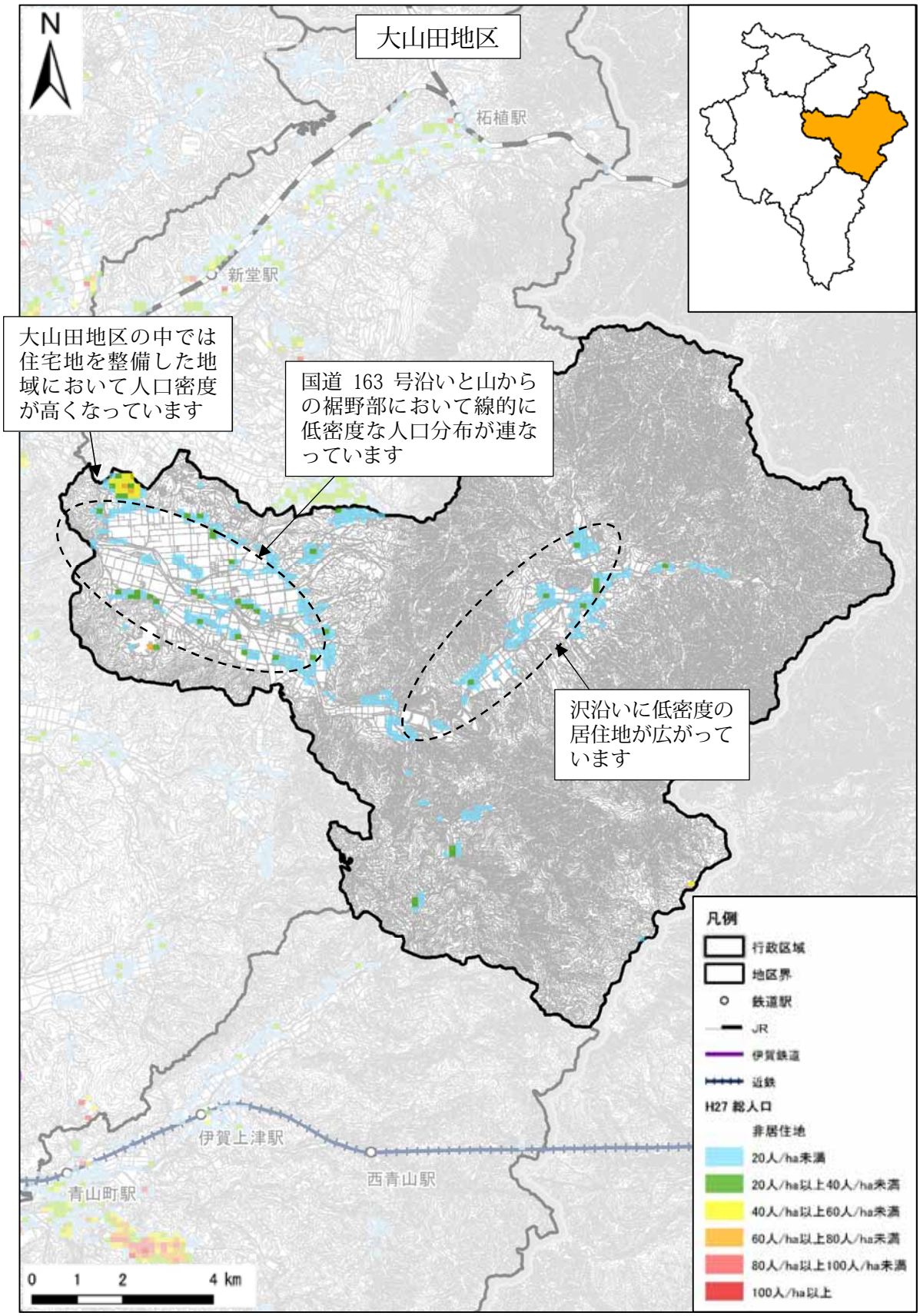
資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・島ヶ原地区）



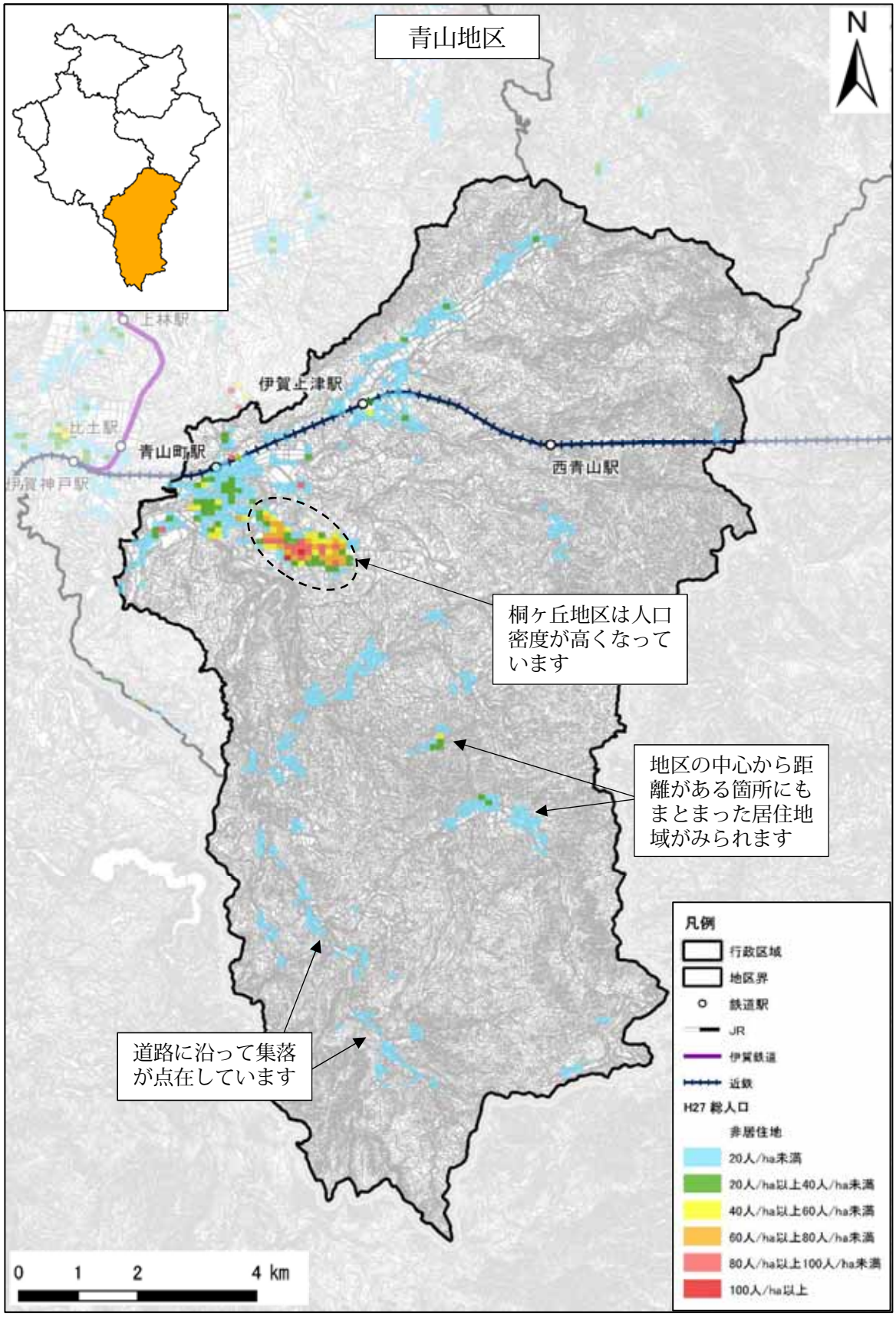
資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・阿山地区）



資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・大山田地区）



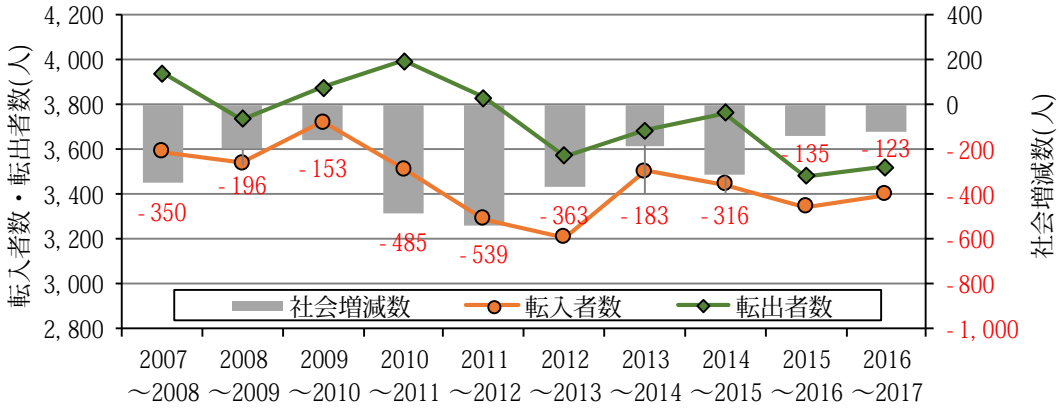
資料：平成 27 年国勢調査

■人口分布図（2015 年人口密度 100m メッシュ・青山地区）

(3) 社会増減数※1

① 社会増減数の推移

転入者数は 3,200～3,700 人/年で推移、転出者数は 3,500 人～4,000 人/年で推移しており、ここ 10 年間はいずれの年も転出者数が転入者数を上回り、社会減となっています。統計上直近の「2015 年～2016 年」と「2016 年～2017 年」では、10 年間の中で転出者数が少なくなっており、社会増減数は▲130 人/年程度に留まっています。



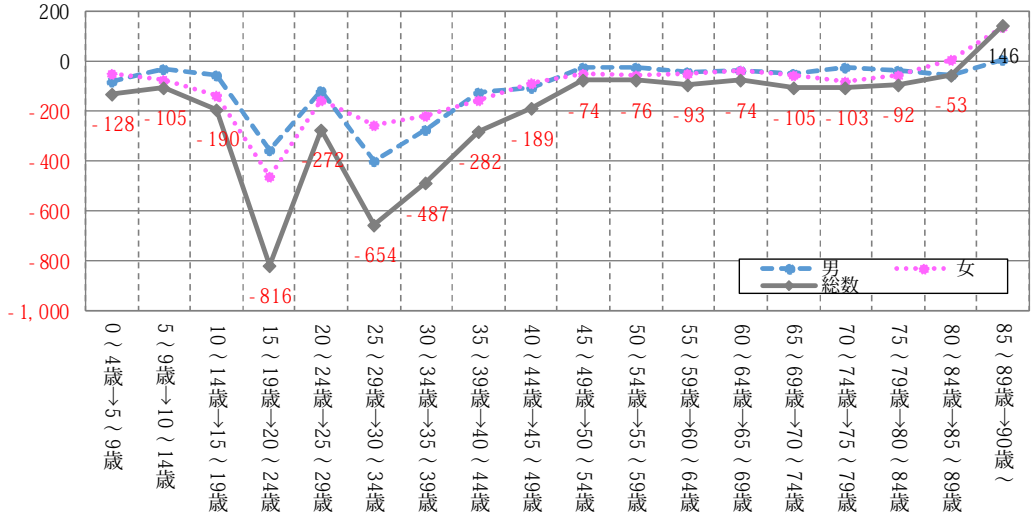
資料：三重県月別人口調査結果

■社会増減数の推移

※1：社会増減数は、他地域からの転入者数と転出者数による人口の増減数

(4) 年齢別人口移動※2

2010 年から 2015 年にかけての年齢別の人口移動数は、ほぼ全世代でマイナスとなっていますが、特に大学生となる「15～19 歳→20～24 歳」と、結婚して家庭を持つ「25～29 歳→30～34 歳」で移動数のマイナスが大きくなっています。

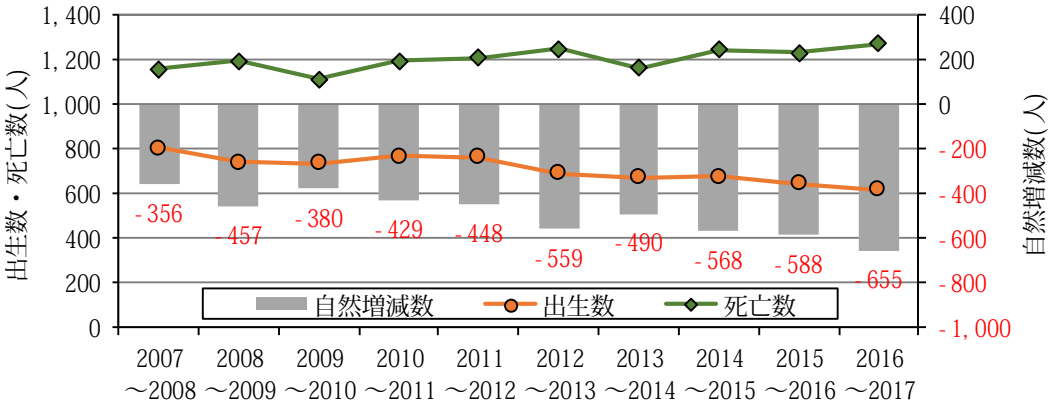


■2010 年から 2015 年の年齢別人口移動

※2：人口移動は、国勢調査を基本とした進学、就職、結婚などライフ・イベントの居住地の移動
（2010 年の居住地と 2015 年の居住地の比較で、伊賀市からの転出（転入）者数を示す）

(5) 自然増減数※3

伊賀市の出生数は、減少が進んでいるのに対し、死亡数は、増加が進んでいます。そのため、自然増減数は減少が進んでおり、「2007 年～2008 年」は▲356 人であったの対し、「2016 年～2017 年」は▲655 人と、10 年間で減少数は約 2 倍となっています。



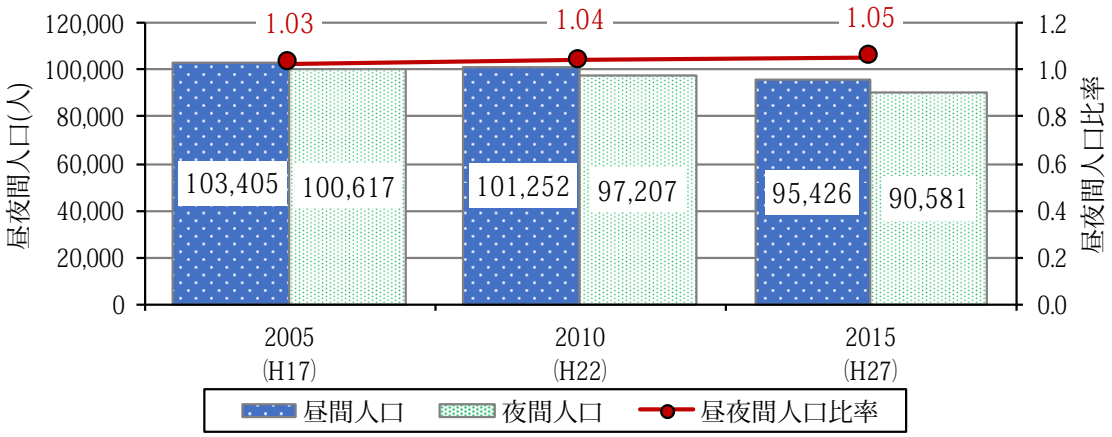
資料：三重県月別人口調査結果

■自然増減数の推移

※3：自然増減数は、出生数と死亡数による人口の増減数

(6) 昼夜間人口※4

伊賀市の昼間人口と夜間人口はともに減少が進んでおり、2015（平成 27）年時点では昼夜共に 100,000 人を下回っています。昼夜間人口比率※5は 2015（平成 27）年時点で 1.05 と、わずかに昼間人口の方が高くなっています。



資料：国勢調査

■昼夜間人口の推移

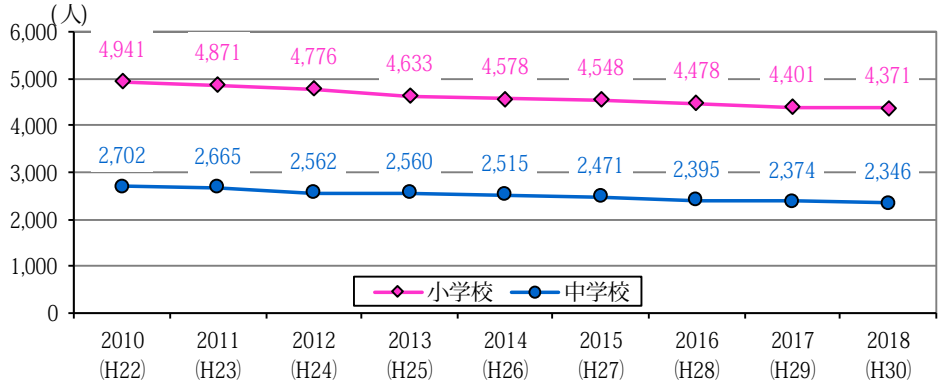
※4：昼間人口＝本市の人口（夜間人口）－本市からの流出人口（本市から他市町村への通勤・通学者数）
＋本市への流入人口（他市町村から本市への通勤・通学者数）

※5：昼夜間人口比率＝（昼間人口／夜間人口）

3-4　学校教育

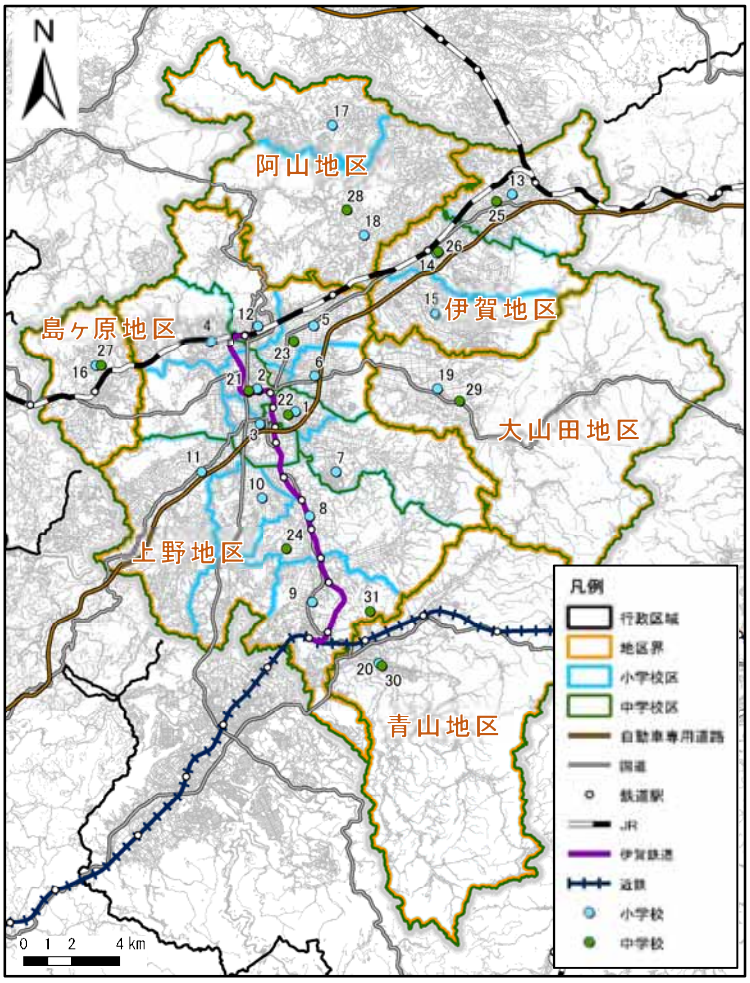
(1) 小学校・中学校

小学校の児童数は、2010（平成 22）年の 4,941 人から 2018（平成 30）年の 4,371 人と、8 年間で 570 人（12%）減少しています。また、中学校の生徒数は 2010（平成 22）年の 2,702 人から 2018（平成 30）年の 2,346 人と、8 年間で 356 人（13%）減少しています。



資料：学校基本調査

■小中学校の児童・生徒数の推移



■小中学校の位置と校区

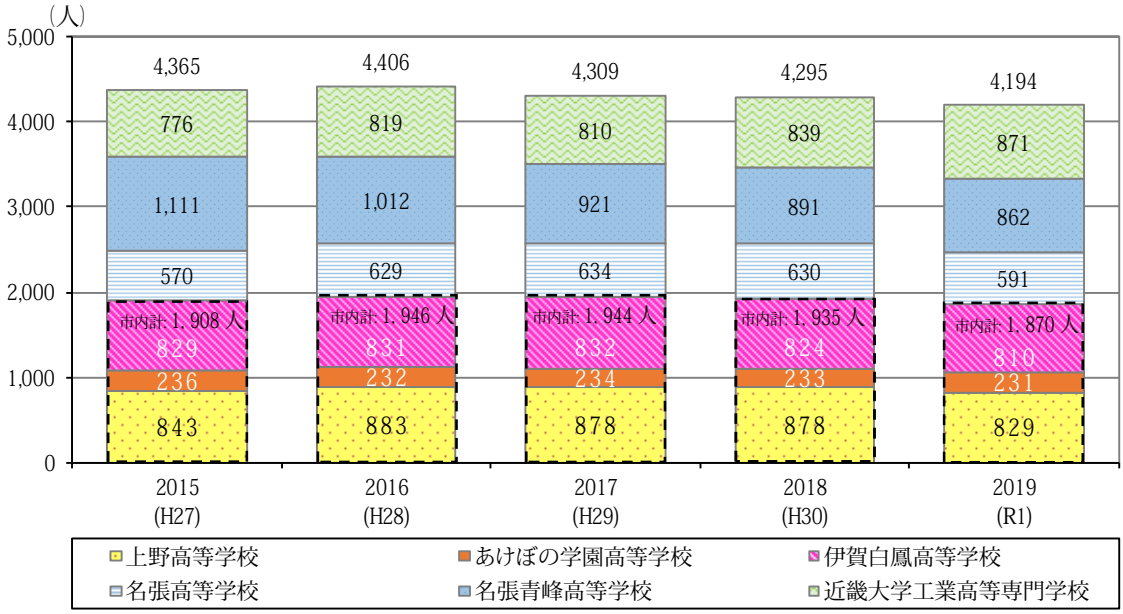
■小中学校の一覧

NO	名称	NO	名称
1	上野東小学校	21	崇広中学校
2	上野西小学校	22	緑ケ丘中学校
3	久米小学校	23	城東中学校
4	上野北小学校	24	上野南中学校
5	府中小学校	25	柘植中学校
6	中瀬小学校	26	霊峰中学校
7	友生小学校	27	島ヶ原中学校
8	依那古小学校	28	阿山中学校
9	神戸小学校	29	大山田中学校
10	成和東小学校	30	青山中学校
11	成和西小学校	31	桜丘中学校
12	三訪小学校		
13	柘植小学校		
14	西柘植小学校		
15	壬生野小学校		
16	島ヶ原小学校		
17	玉滝小学校		
18	阿山小学校		
19	大山田小学校		
20	青山小学校		

(2) 高等学校

伊賀市内の公立高校は、上野高等学校、あけぼの学園高等学校、伊賀白鳳高等学校、私立高校は桜丘学園桜丘高等学校と愛農学園農業高等学校、神村学園高等部 伊賀の計６校があります。また、名張市内には公立の名張高等学校、名張青峰高等学校、私立の近畿大学工業高等専門学校の３校があります。

公立高等学校の生徒数をみると、市内では上野高等学校、伊賀白鳳高等学校がそれぞれ800人超と、この２校が多くなっています。６校合計の生徒数は2015年度時点では4,365人であったのに対し、2019年度では4,194人と、約４％減少しています。

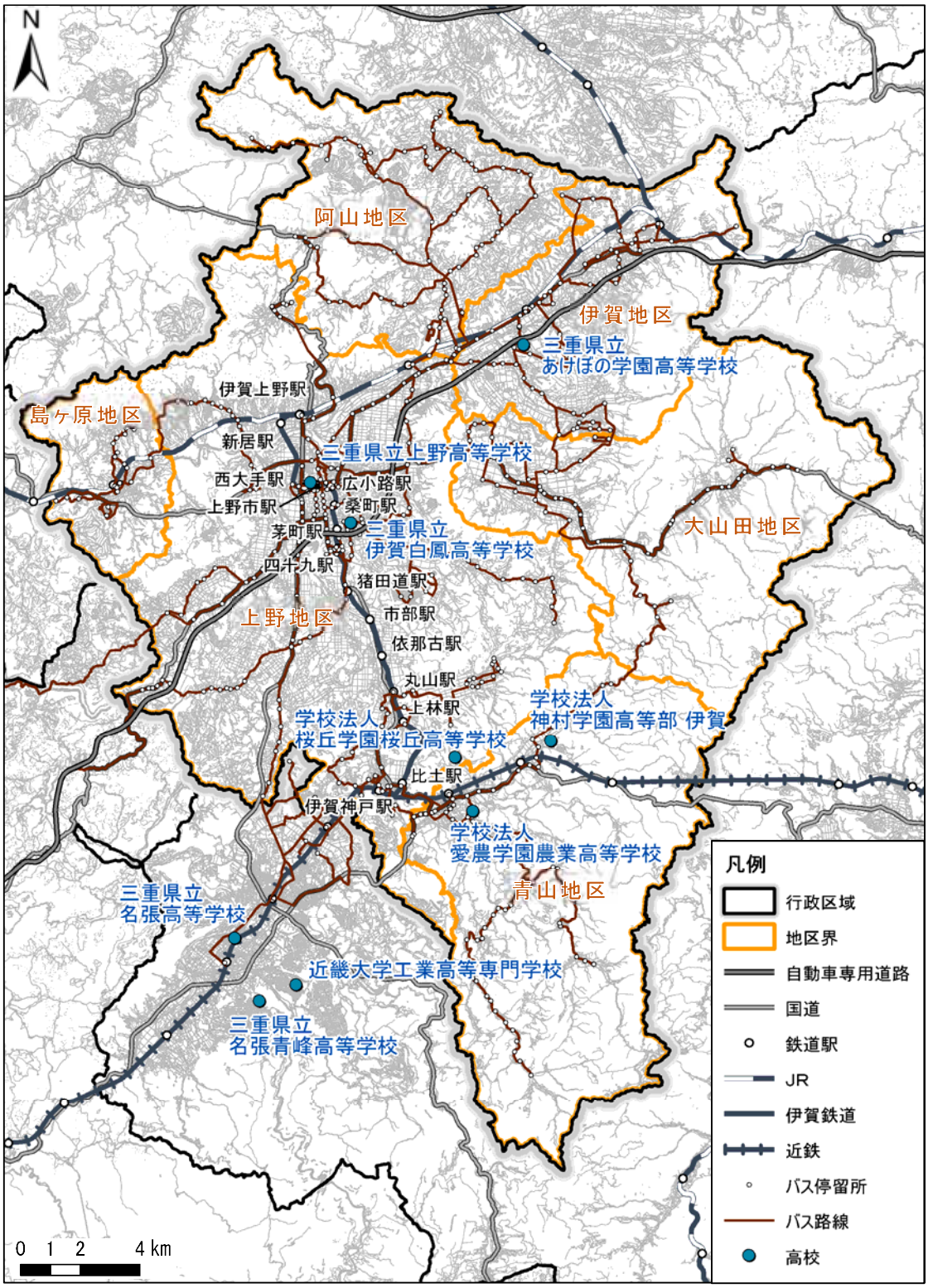


資料：三重県教育委員会学校名簿（各年５月１日時点）

■高等学校の生徒数の推移（公立）

上野高等学校は、伊賀鉄道の上野市駅や西大手駅が最寄り駅となっており、駅から徒歩５分程度とアクセス性が高い場所に立地しています。

伊賀白鳳高等学校についても、伊賀鉄道の桑町駅や茅町駅が最寄り駅となっており、駅から徒歩 10 分程度とアクセス性が高い場所に立地しています。

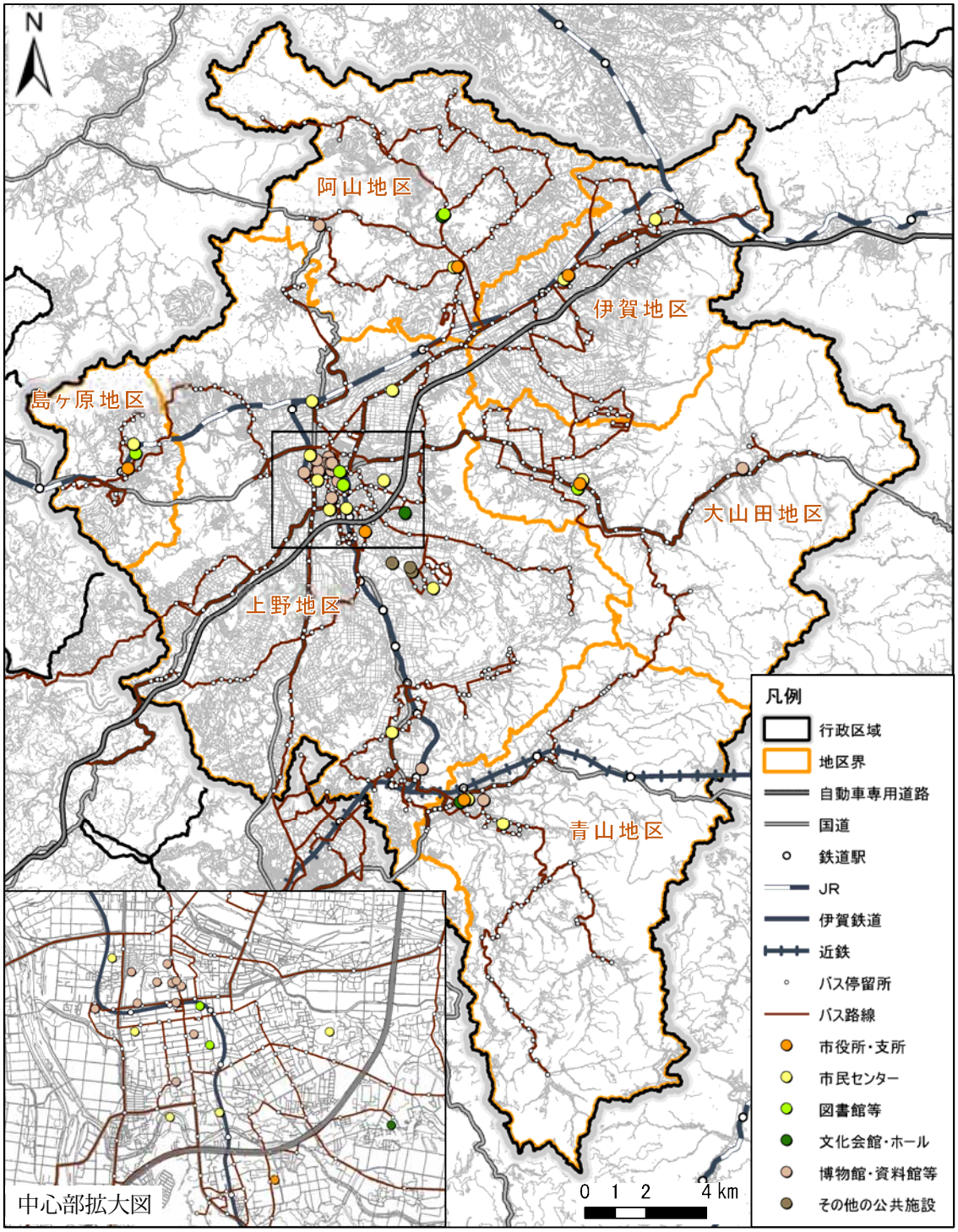


■高等学校の分布図

3-5 施設分布

(1) 公共施設

上野地区を除く各地区の中心部に支所が位置しており、その支所周辺に複数の公共施設が分布しています。いずれの施設もバス路線の沿線に位置しています。また、「博物館・資料館等」「その他公共施設」は上野地区の中心部に多く分布しています。

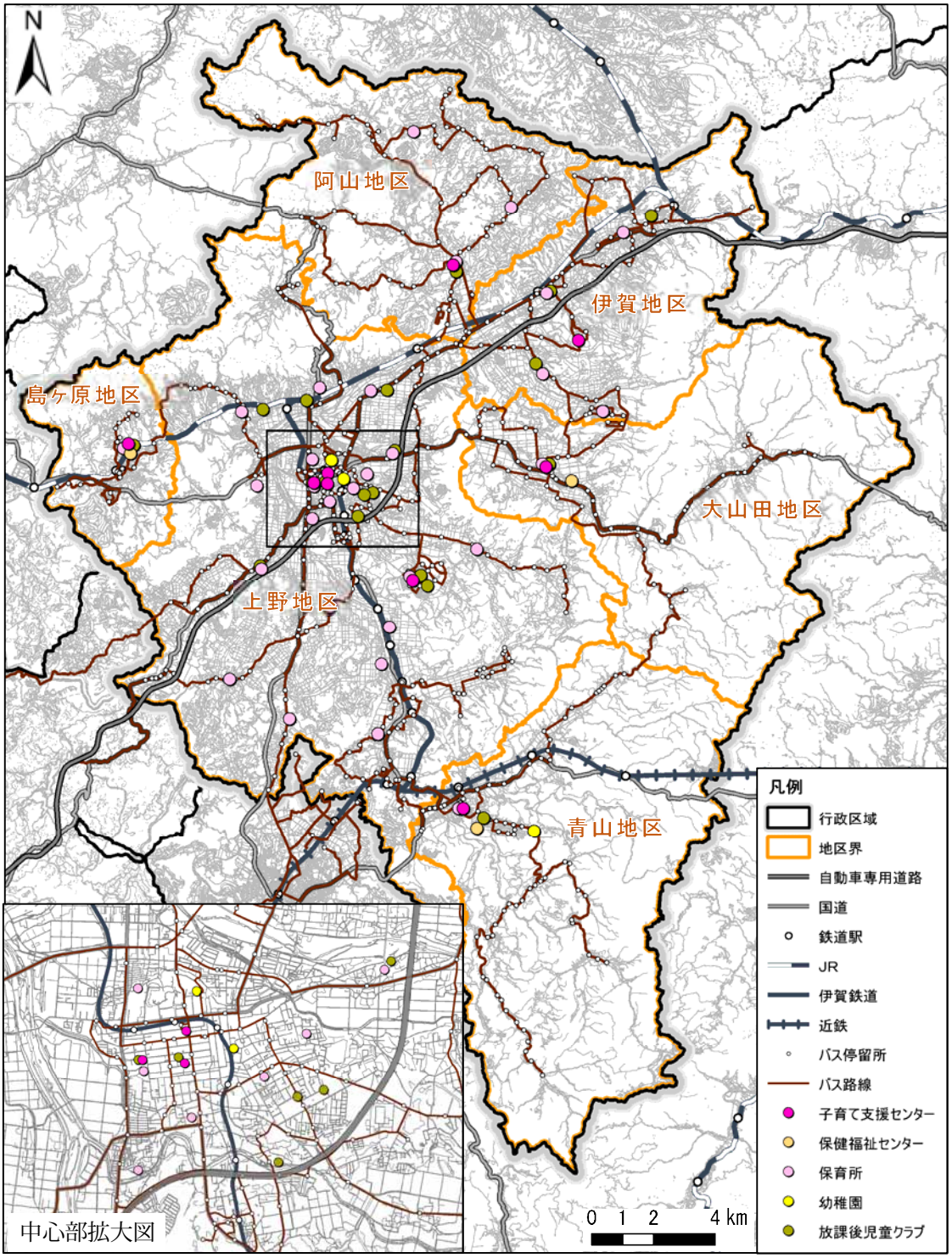


■公共施設の分布図

(2) 子育て支援施設

子育て支援施設は、島ヶ原地区や阿山地区、大山田地区、青山地区では、地区の中心に、子育て支援センターをはじめ、多くの施設が分布しています。上野地区では、市中心部や市役所本庁舎周辺に多く分布しています。

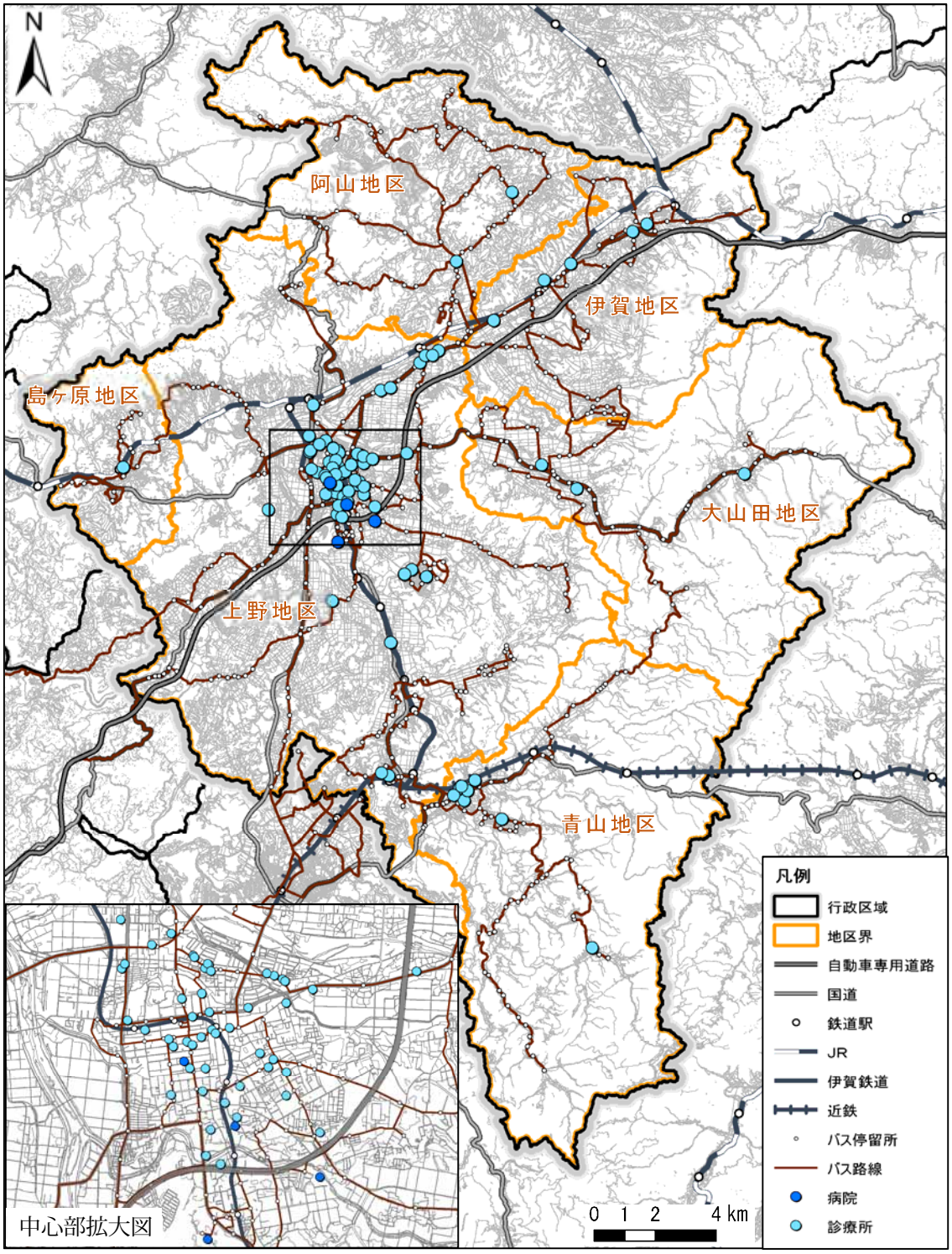
また、保育所や放課後児童クラブについては、市域全体に満遍なく分布しています。



■子育て支援施設の分布図

(3) 医療施設

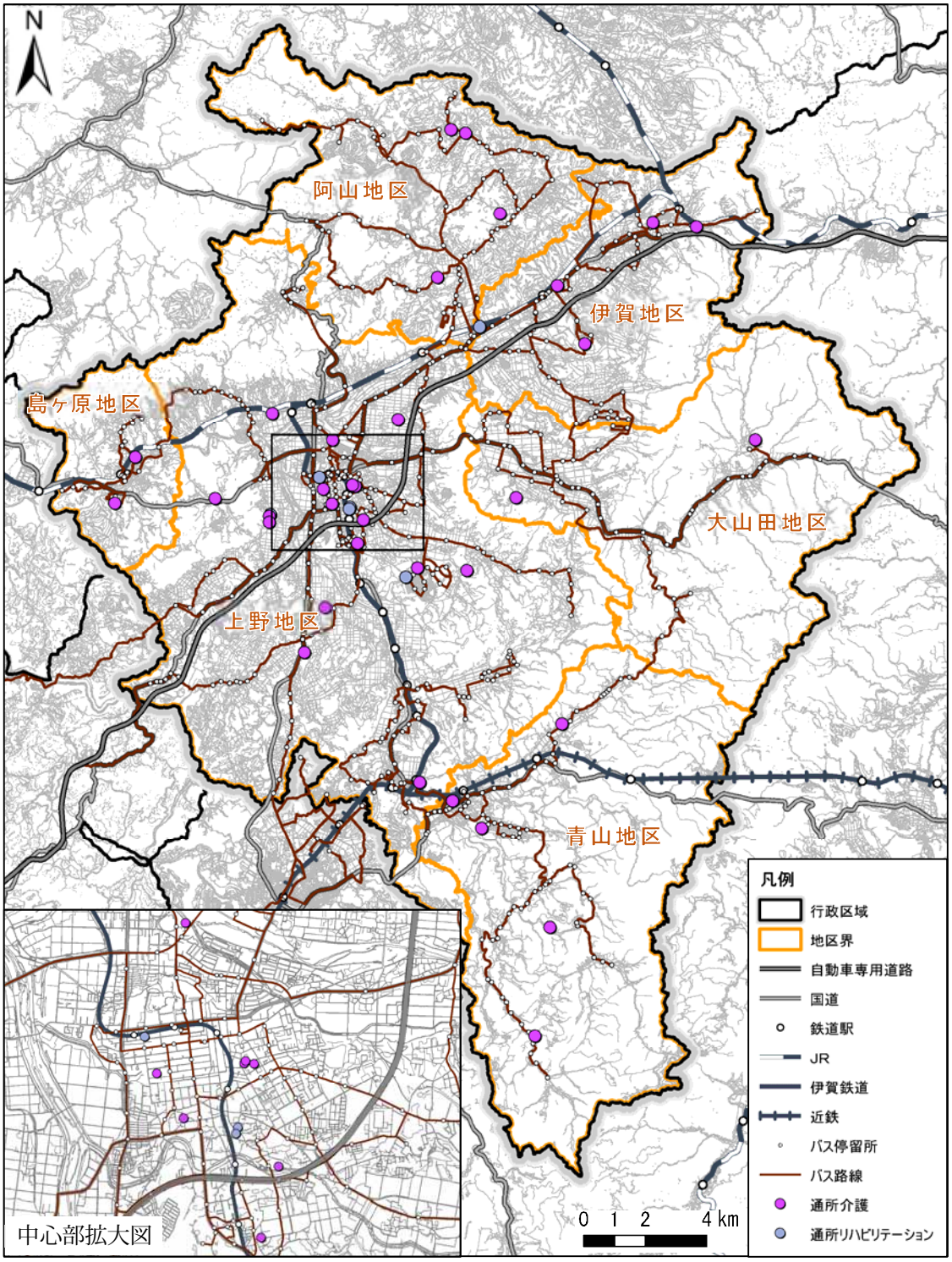
医療施設は、市中心部に多く分布しているほか、上野地区と伊賀地区を結ぶ国道 25 号沿いに多く分布しています。また、青山地区も地区の中心部にまとまって分布しています。島ヶ原地区や阿山地区、大山田地区は他の地区と比較し、医療施設の数は限定的です。



■医療施設の分布図

（4）福祉施設

通所介護施設、通所リハビリテーション施設ともに、各地区に比較的、満遍なく分布しています。

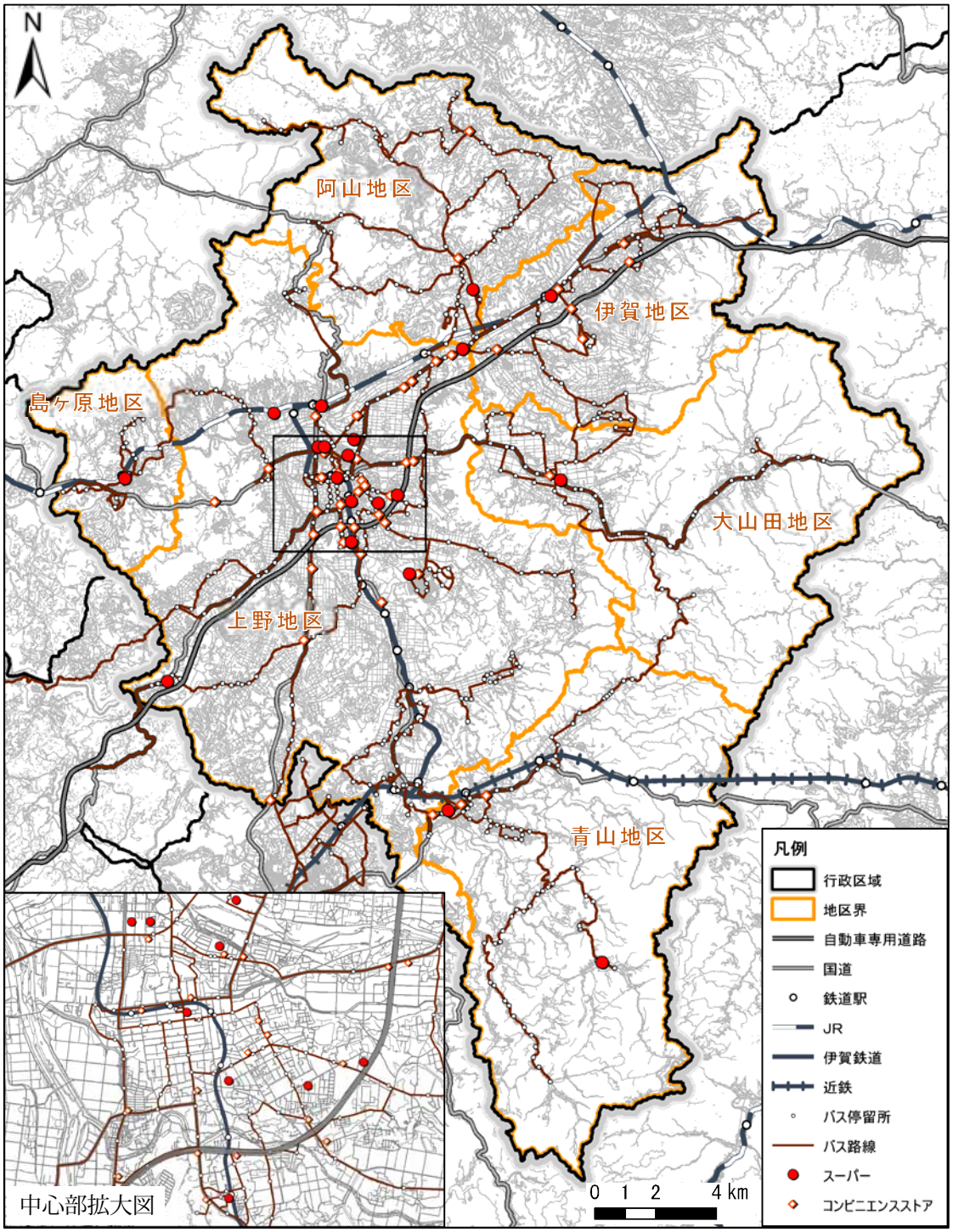


■福祉施設の分布図

（5）商業施設

スーパーは、市中心部に多く分布しています。イオンタウン伊賀上野やアピタ伊賀上野店など規模の大きなスーパーでバス停近傍に位置する店舗もありますが、バス路線からわずかに距離のある店舗もみられます。また、上野地区以外の各地区には、数店舗ずつ分布しており、基本的にバス停近くに位置しています。

コンビニエンスストアについては、基本的に幹線道路沿道に分布しています。

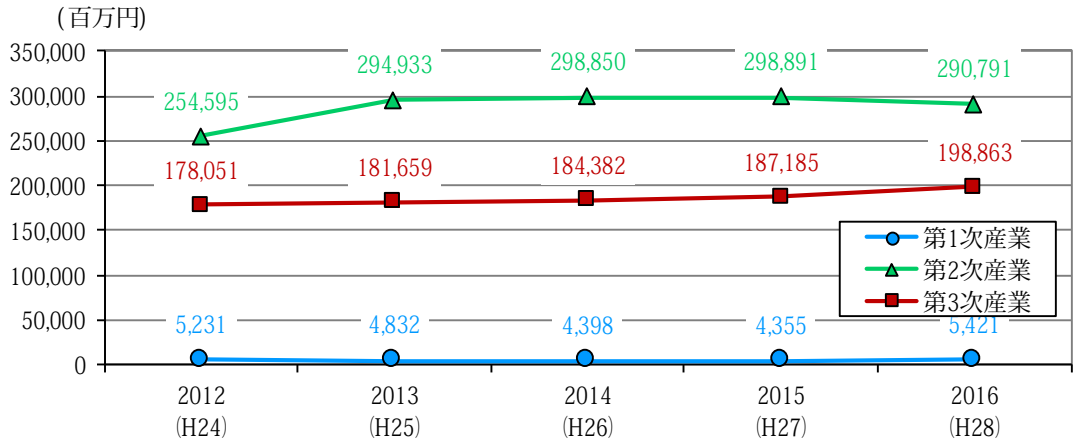


■商業施設の分布図

3-6 産業動向

(1) 市内総生産の推移

伊賀市の市内総生産は、第 1 次産業がほぼ横ばい、第 2 次産業が 2012（平成 24）年から 2013（平成 25）年にかけて大きく増加しましたが、2015（平成 27）年から 2016（平成 28）年にかけては減少しています。第 3 次産業は徐々に増加している傾向にあります。また、2016（平成 28）年時点で第 2 次産業は 290,791 百万円と最も多く、全体の約 60%を占めています。

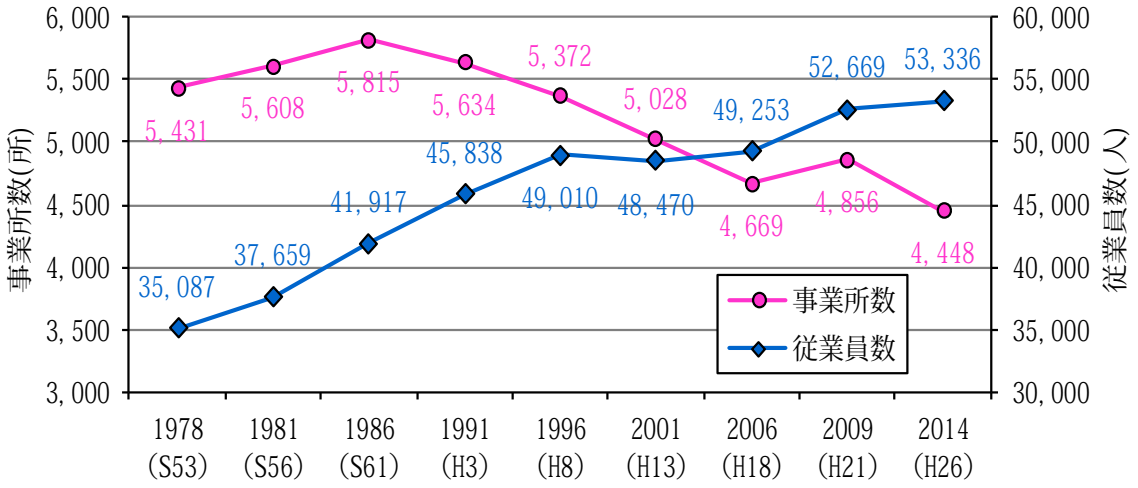


資料：三重県の市町民経済計算

■市内総生産の推移

(2) 事業所数・従業員数の推移

伊賀市の事業所数は、1986（昭和 61）年の 5,815 所をピークに減少が進んでいるのに対し、従業員数は、1978（昭和 53）年以降増加が進んでいます。従業者数は 2016（平成 26）年時点で 53,336 人と平成 18 年から 8 年間で約 4,000 人増加しています。

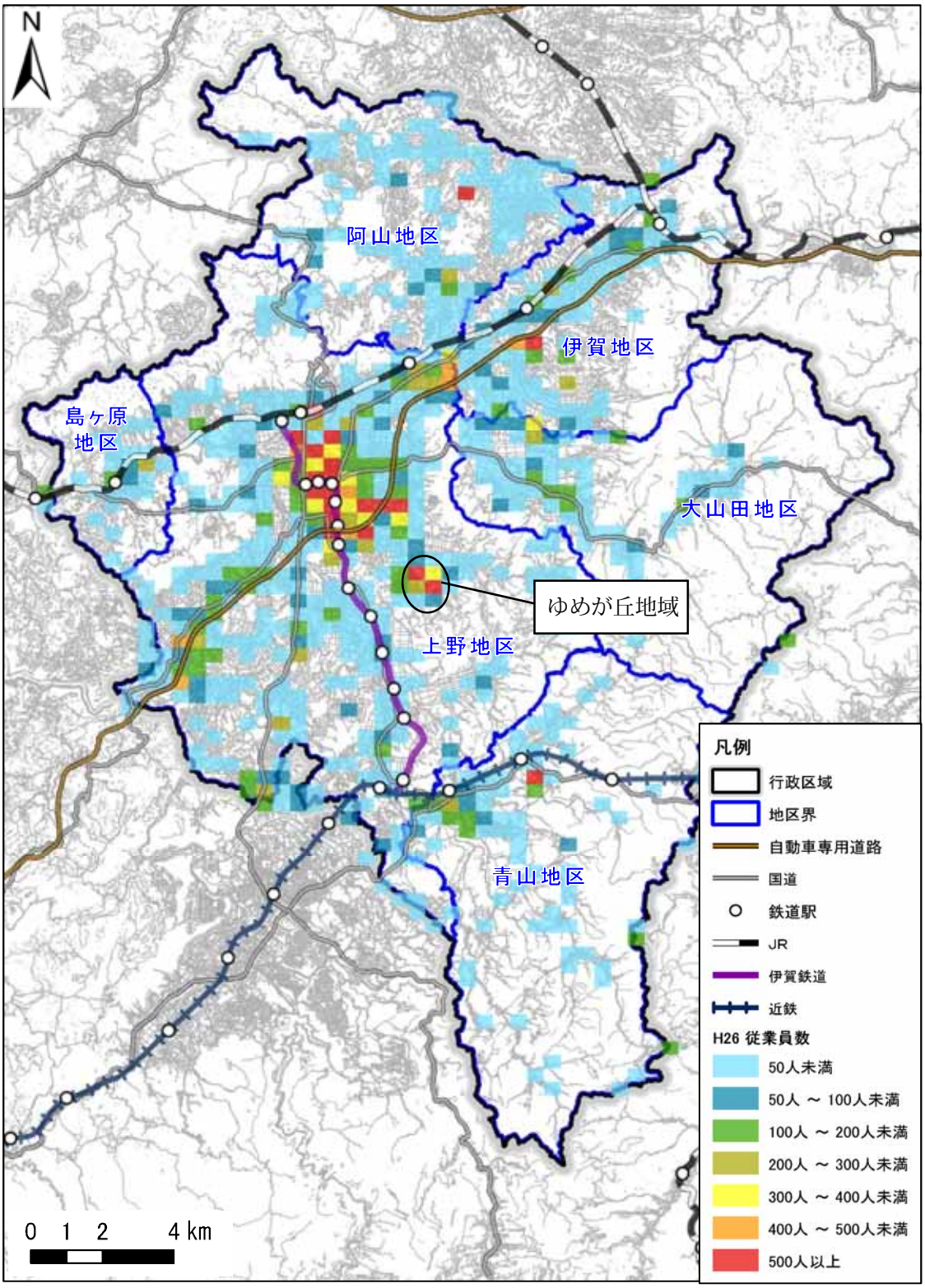


資料：事業所・企業統計調査(S53. 7. 1～H18. 10. 1)、経済センサス-基礎調査（H21. 7. 1 以降）

■事業所数・従業員の推移

(3) 従業員の分布

従業員は上野地区の中心部やゆめが丘地域、名阪国道沿線に多く分布しています。



資料：平成 26 年経済センサス基礎調査

■従業員数の分布図

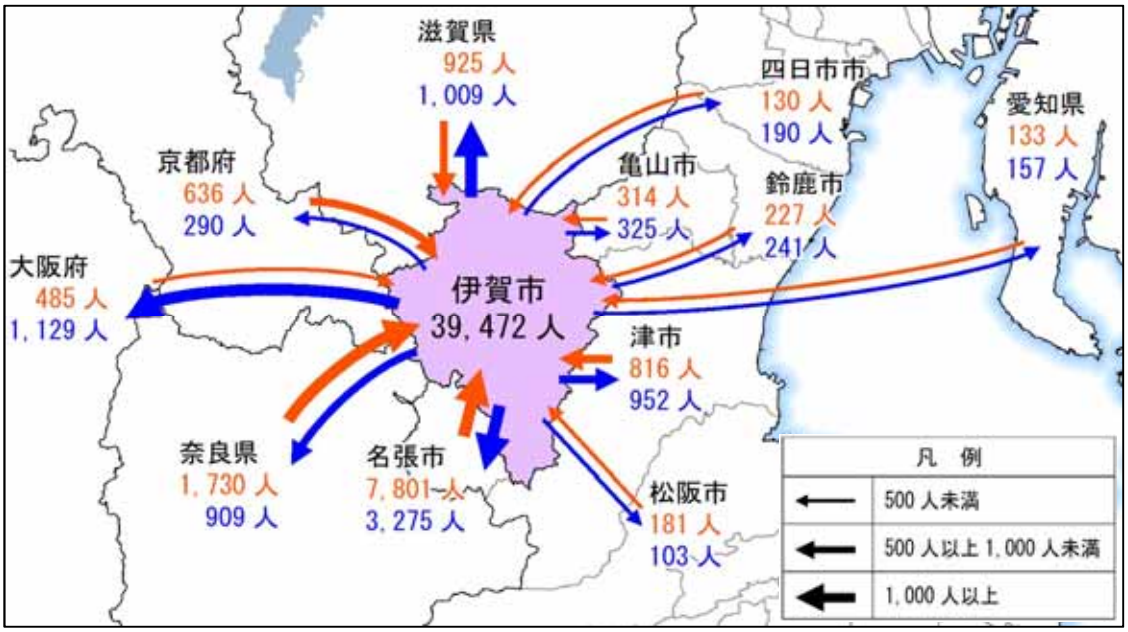
3-7 通勤・通学流動

(1) 通勤・通学を合わせた流動

伊賀市の通勤及び通学流動人口は、三重県内でみると、特に名張市との流動が多く、流入人口が 7,801 人、流出人口が 3,275 人となっています。また、名張市以外の市町村との流動は、どの市町村も流入人口と流出人口共に 1,000 人以下となっています。

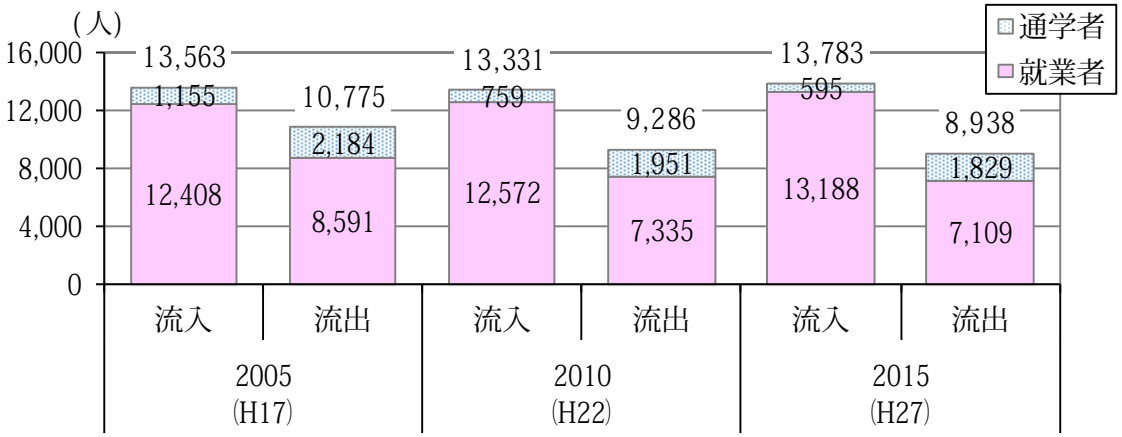
三重県外でみると、流入人口では奈良県、流出人口では大阪府と滋賀県が 1,000 人以上となっており、特に流出入合わせ奈良県との流動人口が多いことが分かります。

2005（平成 17）年から 2015（平成 27）年の流出数・流入数の推移をみると、流入数はほぼ横ばいですが、その中で、就業者数は増加、通学者数は減少となっています。また、流出数は、減少しており、2005（平成 17）年の 10,775 人から 2015（平成 27）年の 8,938 人と 10 年間で 1,800 人減少しています。これは伊賀市の生産年齢人口の減少によるものと考えられます。



資料：平成 27 年国勢調査

■通勤・通学を合わせた流動

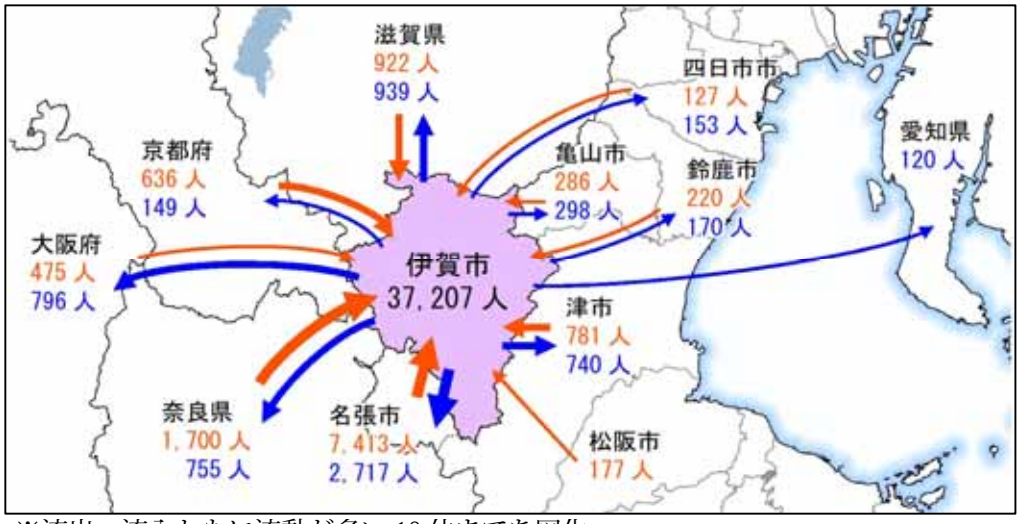


資料：国勢調査

■通勤・通学を合わせた流動数の推移

（2）通勤流動

通勤は、名張市との流動が多く、流入が 7,413 人、流出が 2,717 人と大幅に流入超過となっています。県内では次いで津市との流動が多く、流入・流出ともに 750 人程度となっています。三重県外では、特に奈良県との流動が多く、流入人口が 1,700 人、流出人口が 755 人となっています。また、大阪府との流動もみられ、流出で 796 人、流入で 475 人と日常的に大阪府との行き来も多くなっています。



※流出・流入ともに流動が多い 10 位までを図化

資料：平成 27 年国勢調査

■通勤流動

（3）通学流動

通学流動は、通勤流動と同様に名張市との流動が多く、次いで津市への流出が多くなっています。また、県外の流出は大阪府が 333 人、奈良県が 154 人、京都府が 141 人と関西圏への流出が多くなっています。

※流出・流入ともに流動が多い 10 位までを図化

資料：平成 27 年国勢調査

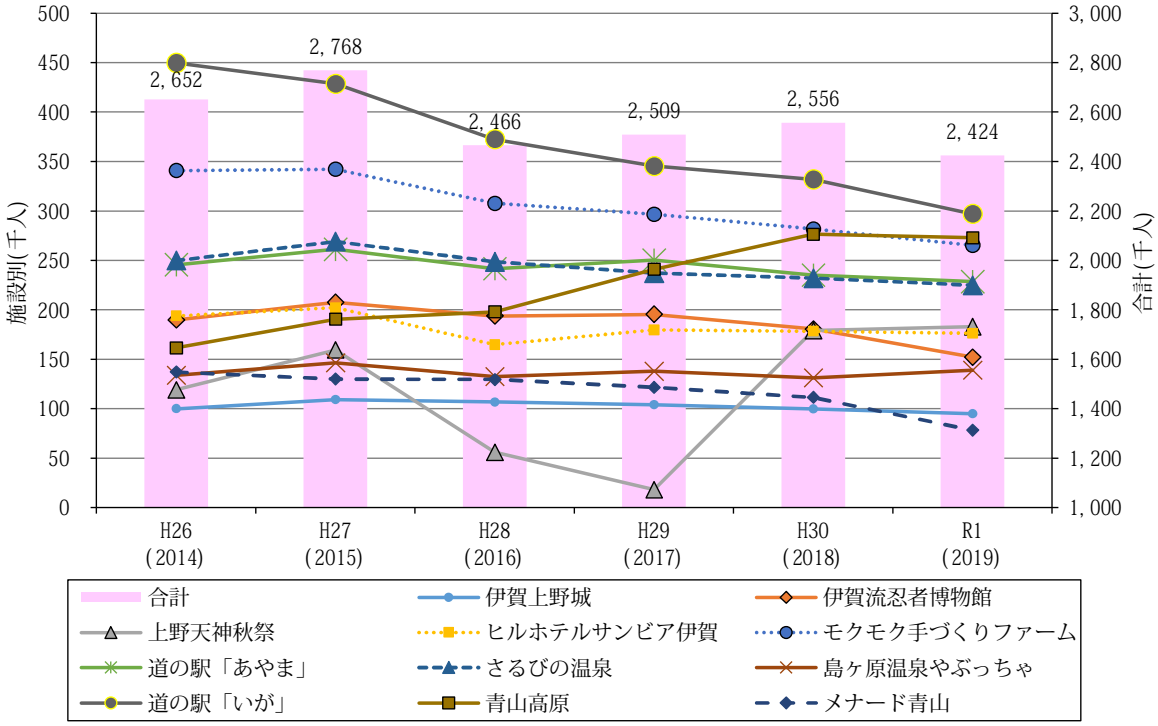
■通学流動

3-8 観光動向

(1) 観光・レクリエーション入込客数

伊賀市の観光・レクリエーション入込客数は、2014（平成 26）年度から 2019（令和元）年度の 6 年間で増減を繰り返していますが、概ね減少傾向となっています。2015（平成 27）年度の 2,768 千人をピークに 2019（令和元）年度は 2,424 千人と約 300 千人減少しています。

施設別でみると、多くの施設で概ね減少傾向となっています。その中で特に最も観光入込客数の多い「道の駅「いが」」が、大きく減少しています。一方で「青山高原」は増加が続いており、2014（平成 26）年度の 161 千人から 2019（令和元）年度の 273 千人と 6 年間で 112 千人増加しています。



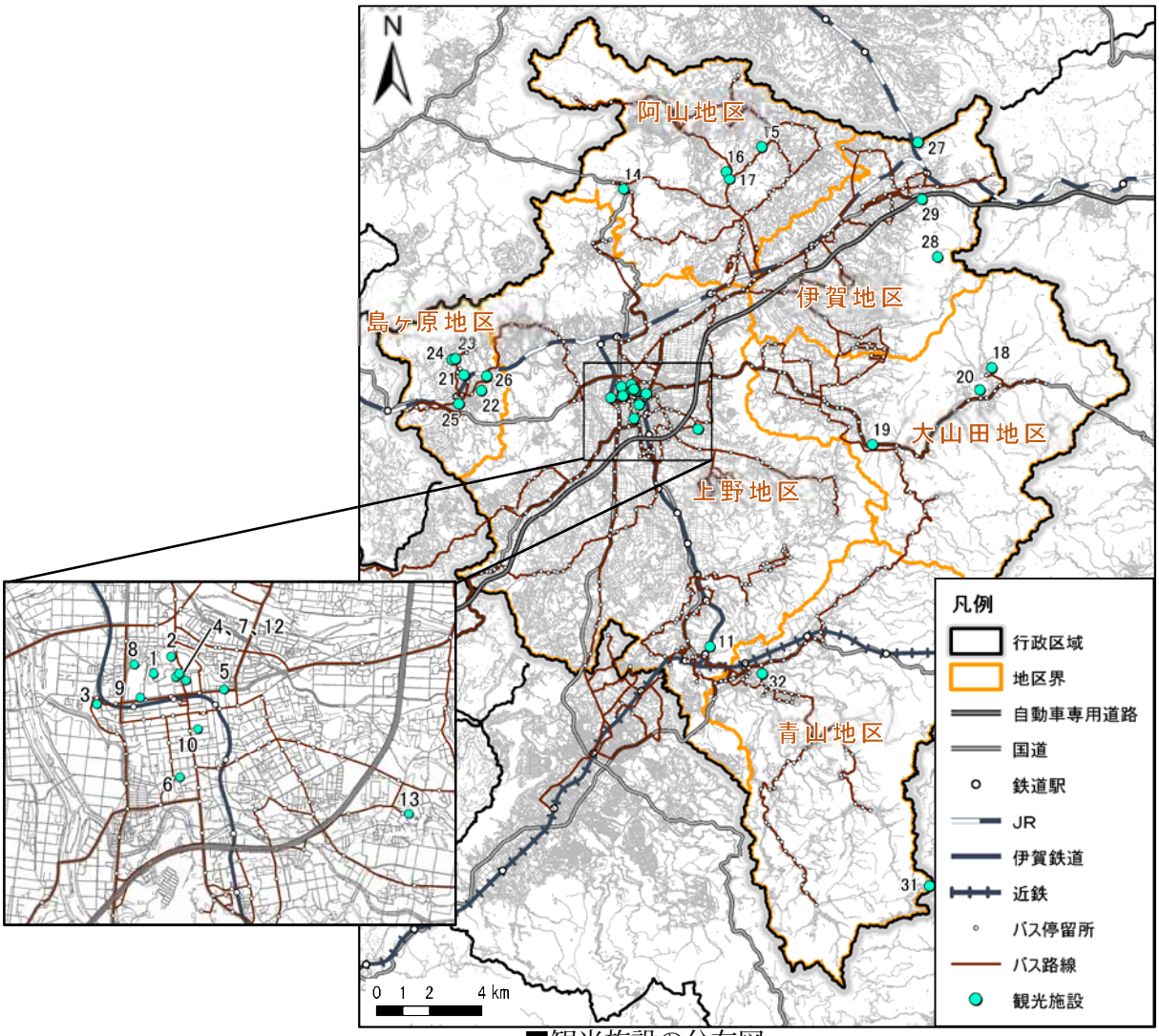
※各施設については、平成 26（2014）年度以降に年間 10 万人以上の入込数があった施設をグラフ化

資料：伊賀市産業振興部観光戦略課

■施設別の観光・レクリエーション入込客数の推移

(2) 観光施設分布

観光施設は上野地区の市の中心部や島ヶ原地区に多く分布しています。また、阿山地区や伊賀地区、大山田地区の観光施設は、地区の中心部でなく、外縁部に位置しています。



■観光施設の分布図

■観光施設の一覧

NO	名称	NO	名称	NO	名称
1	伊賀上野城	12	伊賀くみひも 組匠の里	23	正月堂
2	伊賀流忍者博物館	13	ヒルホテルサンピア伊賀	24	まちかど博物館醤油蔵
3	伊賀越資料館	14	伊賀焼伝統産業会館	25	旧本陣
4	だんじり会館	15	モクモク手づくりファーム	26	島ヶ原温泉やぶっちゃ
5	芭蕉翁生家	16	ふるさとの森公園	27	余野公園
6	蓑虫庵	17	道の駅「あやま」	28	霊山
7	芭蕉翁記念館	18	さるびの温泉	29	道の駅「いが」
8	旧小田小学校	19	豊寿庵	30	青山高原
9	旧崇廣堂	20	新大仏寺	31	メナード青山
10	入交家住宅	21	鸕宮神社	32	伊賀市ミュージアム 青山讃頌舎
11	城之越遺跡	22	普門窯		

3-9 自動車交通

(1) 自動車保有率

伊賀市は、自動車保有台数が 79,063 台、人口が 88,111 人であるため、人口あたりの自動車保有率は 89.7%となっています。近隣の津市と亀山市と同程度の割合となっており、自動車を保有している市民が非常に多いことが分かります。

■市町村別の人口あたりの自動車保有台数

	自動車保有台数(台)	人口(人)	人口あたりの自動車保有台数(台)
伊賀市	79,063	88,111	0.90
津市	251,412	276,660	0.91
亀山市	46,866	50,035	0.94
名張市	55,717	77,040	0.72

資料：令和 2 年刊 三重県統計書

(2) 運転免許返納状況

運転免許返納状況は下表のとおりですが、伊賀市内では 1 年間で約 300 人程度の方が運転免許を返納している状況で、95%以上の方が高齢者となっています。また、運転免許返納者数は年々増加しており、伊賀警察署管内をみると、5 年間で約 3 倍となっています。

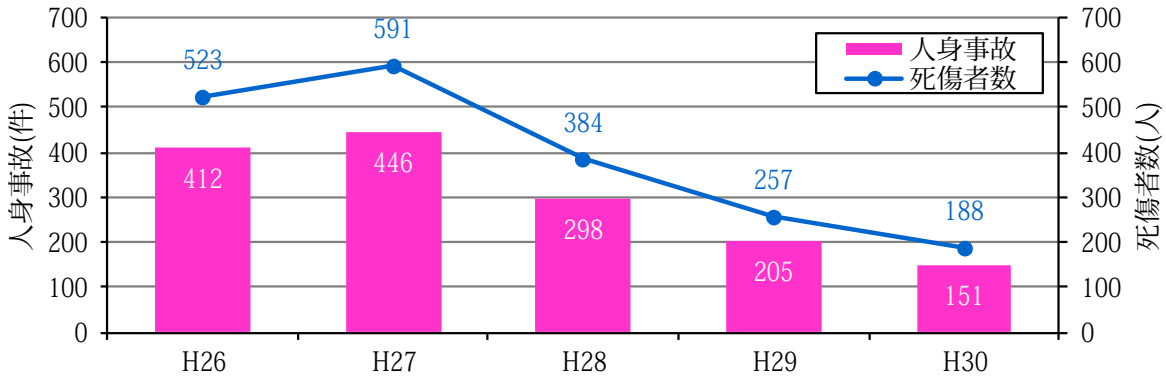
■運転免許返納者数

警察署	項目	H27	H28	H29	H30	R1
伊賀警察署管内 (上野地区、伊賀地区、島ヶ原地区、阿山地区、大山田地区)	運転免許取消者数	107	122	241	255	291
	うち高齢者数 (割合)	—	119 (97.5%)	228 (94.6%)	219 (97.3%)	288 (99.0%)
名張警察署（青山地区）	運転免許取消者数	—	—	—	—	24

資料：伊賀警察署、名張警察署提供

(3) 交通事故

交通事故は、2015（平成 27）年の人身事故が 446 件、死傷者数が 591 人をピークに減少が進んでいます。また、2018（平成 30）年では人身事故が 151 件、死傷者数が 188 人であるため、ピーク時である平成 27 年と比較すると、人身事故が 295 件、死傷者数が 403 人も減少していることが分かります。



資料：三重の交通統計

■伊賀市の交通事故発生状況の推移